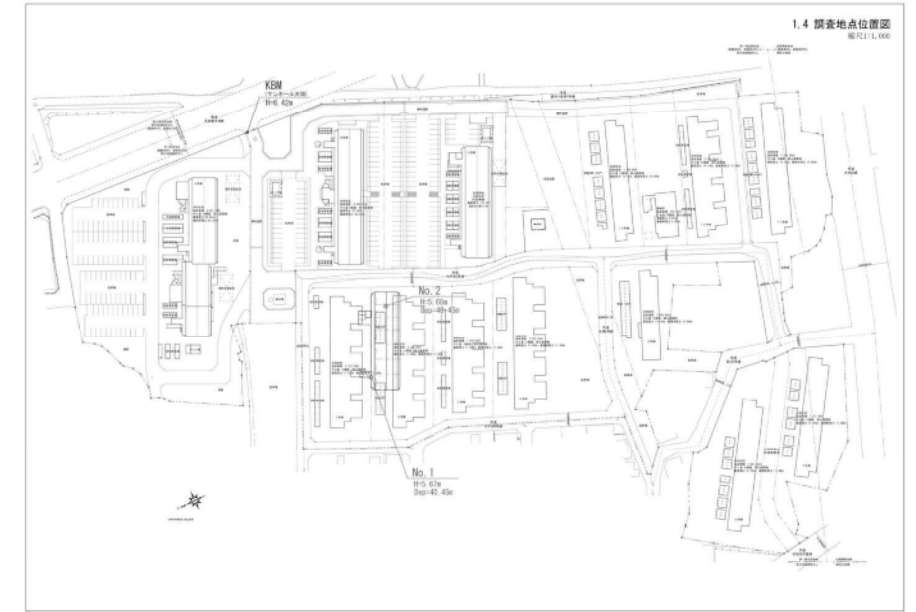


ボーリング柱状図

ボーリング柱状図



Z0 = TP+5.60

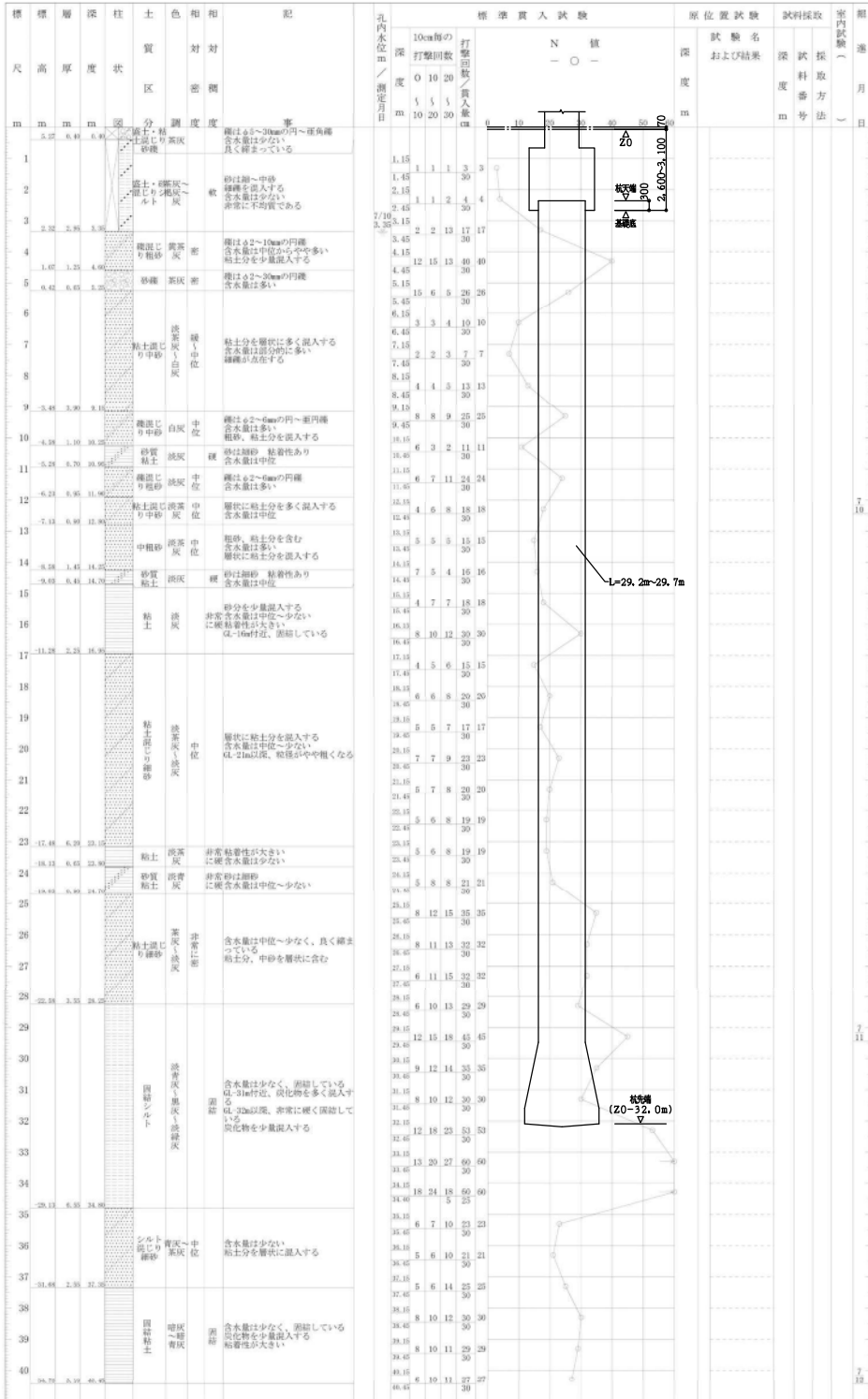
調査名 清水住宅地質調査(第4次)

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	東海市荒尾町地内	北緯	35° 1' 39.65"
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成29年7月10日～29年7月13日	
調査業者名	株式会社中部ウエルボーリング社 電話 (052-781-4131)	主任技師	伊藤博之	コア 鑑定者	河井康史
近藤義明		近藤義明		近藤義明	
ボーリング責任者		ボーリング責任者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP +5.67m	角	方	地盤 勾配	使用 機
総掘進長	40.45m	度	度	向	エンジン
					ワイビーエム、YBM-05
					ハンマー 落下用具
					ポンプ
					カノ、V4



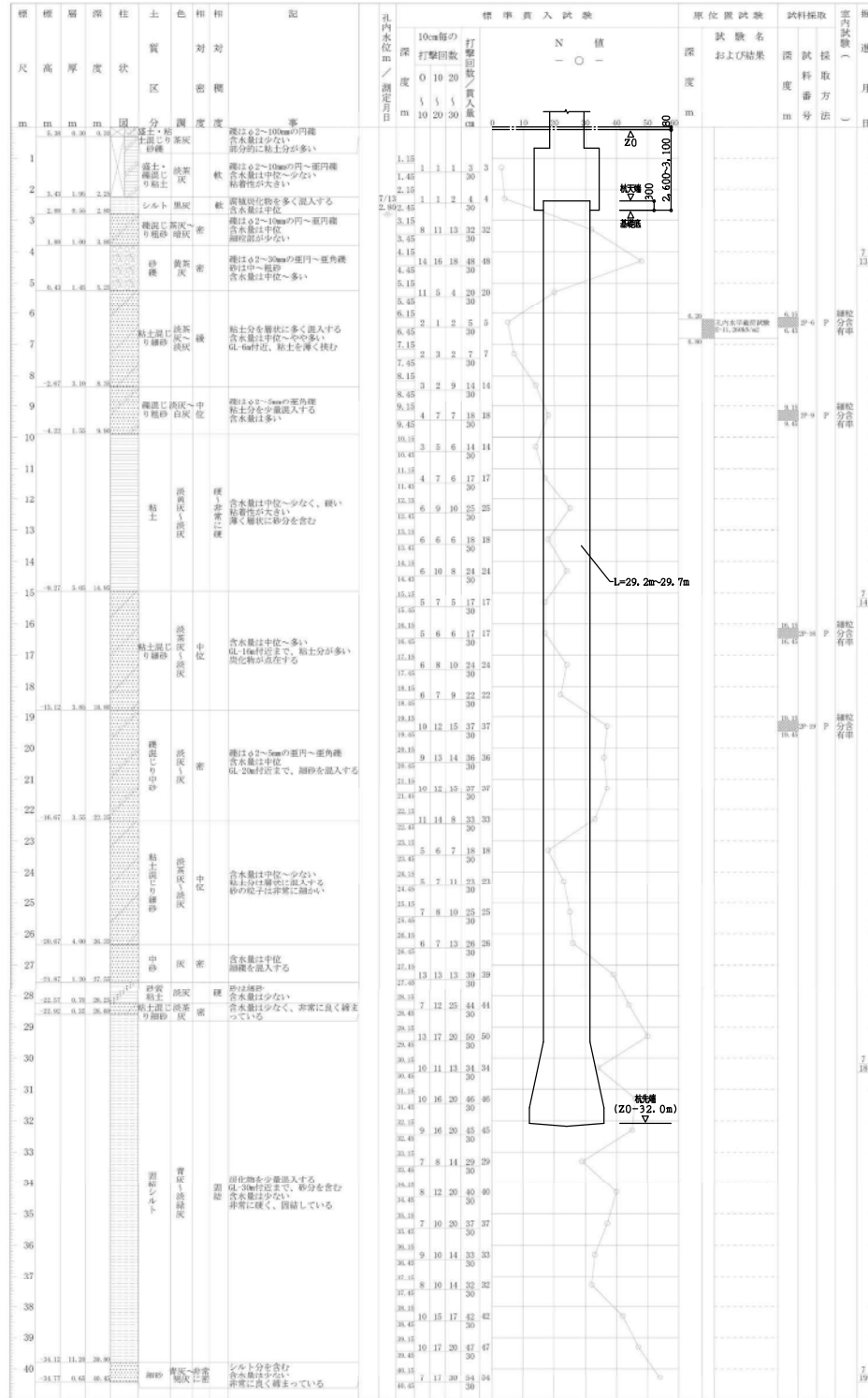
調査名 清水住宅地質調査(第4次)

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	東海市荒尾町地内	北緯	35° 1' 38.80"
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成29年7月13日～29年7月20日	
調査業者名	株式会社中部ウエルボーリング社 電話 (052-781-4131)	主任技師	伊藤博之	コア 鑑定者	河井康史
近藤義明		近藤義明		近藤義明	
ボーリング責任者		ボーリング責任者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP +5.69m	角	方	地盤 勾配	使用 機
総掘進長	40.45m	度	度	向	エンジン
					ワイビーエム、YBM-05
					ハンマー 落下用具
					ポンプ
					カノ、V4



有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160090号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	ボーリング柱状図 縮尺 A1: A3:-	S-10
検 製 図 図	検 製 図 図	設 計 H30年 3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課

現場打ちコンクリート杭地業特記事項 [アースドリル拡底工法]

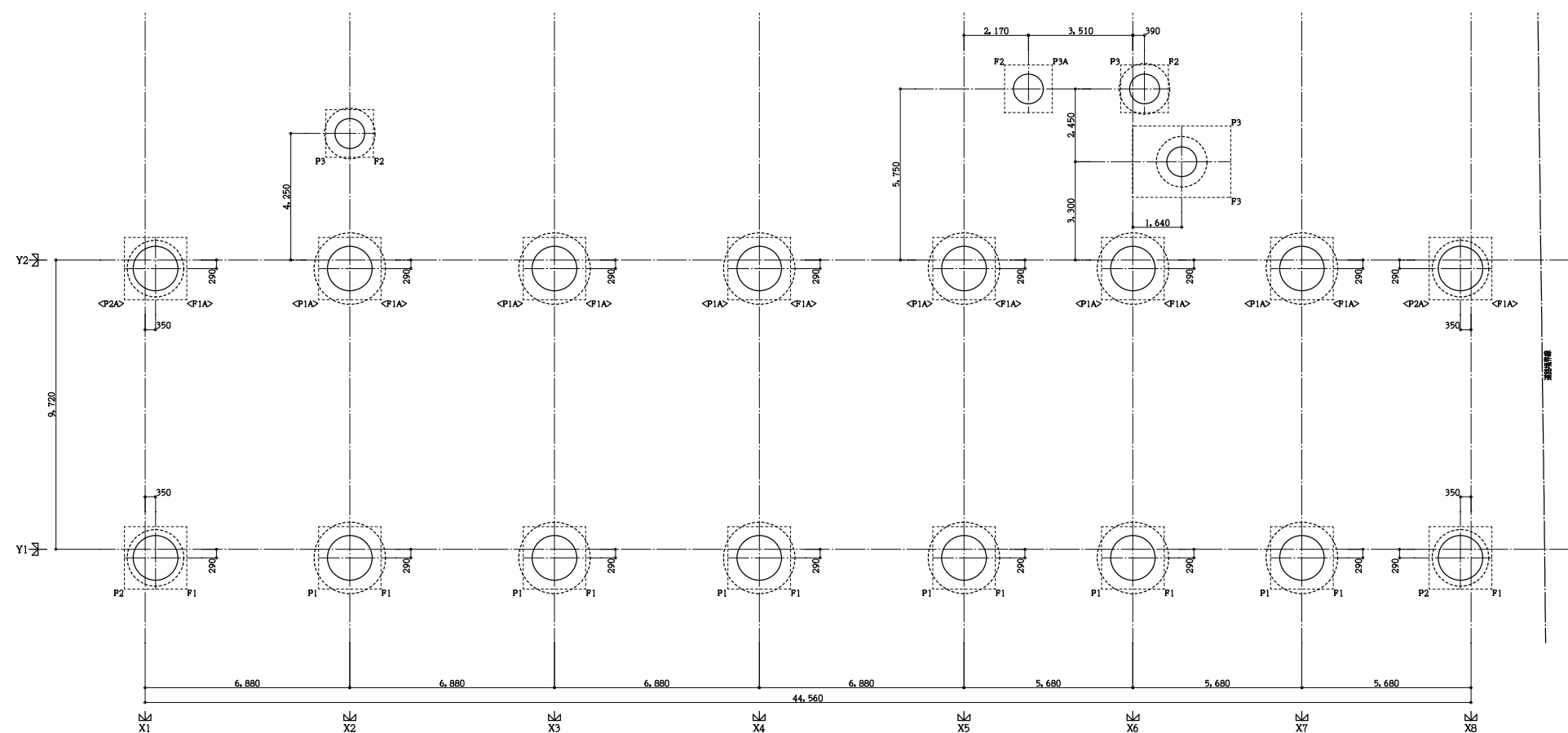
1. 本仕様書に特記なき事項は、公設住宅建設工事共通仕様書及び日本建築学会の「現場打ちコンクリート杭のコンクリートに關する加工指針・特記事項」により施工する。
2. 杭先端部拡底及び杭側面巻きコンクリート杭については、日本建築センターの認定を取得した工法とする。
3. 着工前に施工計画書を提出し、監督員の承認を受ける。
4. 杭のコンクリートは所定スランプ18cm、水セメント比55%以下、単位セメント量340kg/m³以上、単位水量200kg/m³以下、空気量4.5%とし、温度補正は原則として行わない。
5. 使用コンクリートは Fc30 とする。
6. 杭の形状は、SD295A (D13)、SD390 (D29~D38) とする。
7. 杭側面巻きコンクリート杭の継ぎ手の材質は、SKK490とする。
8. 杭の継ぎ手の継ぎ手は100mm以上とする。
9. 主筋の継ぎ手は長さ45d以上とし、3ヶ所以上を#10の筋線で継ぎ手とする。
10. フープは円形加工とし、重ね継ぎ手は溶接する。溶接長さは片面の場合10d以上、両面の場合5d以上とする。組立は、主筋との交点を径0.8mm以上の筋線で継ぎ手とする。
11. 補強リングは、1ヶ所につき3ヶ所程度(φ2.0mm程度)入れ、主筋の全交点に設置し溶接する。溶接長さは補強材の幅とする。補強リングのサイズは以下の表による。

補強材	補強リングの材質・サイズ
杭の軸径が1.2m以下の場合	鋼線 S8400 6.0×38 (mm)
杭の軸径が1.2mを超える場合	鋼線 S8400 9.0×50 (mm)

12. 溶接はアーク手溶接または半自動溶接とし、主筋への高溶接、アークスライク等を行ってはならない。
13. スペーサー (ス・型) は、同一深さの位置に4ヶ所以上 (杭径1500φ以上は、6ヶ所以上) 取付ける。ピッチは補強リングと同じとする。スペーサーのサイズは下表による。

補強材	スペーサーの材質・サイズ
杭の軸径が1.2m以下の場合	鋼線 S8400 4.5×38 (mm)
杭の軸径が1.2mを超える場合	鋼線 S8400 4.5×50 (mm)

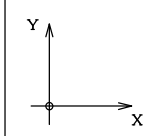
14. 杭側面巻きコンクリート杭のアンカー部は、両面230mm溶接する。
 15. コンクリートの打ち込み先立ちスライム除去を行い、杭底に対し有害なスライムがないことを確認する。
 16. 杭底部のコンクリートの含気率は800mm以上とし、杭底部の基礎へのアンカー部が付着しないよう養生をする。
 17. 杭の孔壁断面測定は全長の10%以上とし、測定箇所は監督員と協議する。
 18. 施工精度は、水平精度(各方向)で100mm以内、鉛直精度で1/100以内とし、杭径の精度は設計図の寸法以上とする。
 19. セメントは高炉セメントB種とし、高炉スラグの混合比は40%以上かつ45%以下とする。
- また、下記どちらかの方法を採用すること。
- ① コンクリートの水セメント比の算定で、混合物の3/10を除いた質量を用いる方法
 - ② 高炉スラグ混合の別記仕様方法を用いて、かぶり厚さを増す方法(基礎部)



杭芯状図 S=1/100

特記なき限り下記による

- 杭天端は Z0-2300 とする
- < >付符号は 杭天端 Z0-2800 とする
- 杭施工前に試験掘削を行い、支持層を確認すること
- 試験掘削は仕製作前の標準貫入試験(先導/確認図)としてもよい。また、その試験結果により杭長の変更を監督者と協議の上、行うことができる

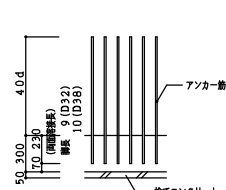


有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	杭芯状図 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	S-11
検 査 図	検 査 図	設 計 H30年3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課

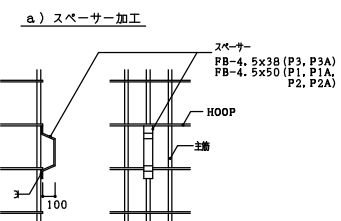
杭リスト S=1/50 *鋼管径は外径寸法を示す				
番号	P1, P1A	P2, P2A	P3	P3A
杭断面				
輪径 (D1)	1500	1500	1000	1000
突起付鋼管	1500φ L=5.0m t=9mm	1500φ L=5.0m t=9mm	1000φ L=5.0m t=9mm	1000φ L=5.0m t=9mm
アンカー筋	外:28-D38, 内:12-D38 (主筋)	外:28-D38, 内:12-D38 (主筋)	外:16-D32, 内:6-D29 (主筋)	外:16-D32, 内:6-D29 (主筋)
主筋	12-D38	12-D38	6-D29	6-D29
HOOP	○-D13-φ300	○-D13-φ300	○-D13-φ300	○-D13-φ300
杭断面				
輪径 (D1)	1500	1500	1000	1000
主筋	24-D35	24-D35	12-D29	12-D29
HOOP筋	○-D13-φ150	○-D13-φ150	○-D13-φ150	○-D13-φ150
杭断面				
輪径 (D1)	1500	1500	1000	1000
主筋	24-D35	24-D35	6-D29	6-D29
HOOP筋	○-D13-φ300	○-D13-φ300	○-D13-φ300	○-D13-φ300
鋼管径 (D2)	2400	1900	1700	1900
長期耐力 (kN)	6400	4700	3700	1900
本数	P1:6 P1A:6	P2:2 P2A:2	3	1

*鋼管径は施工径を示す。

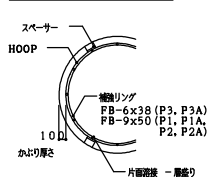
1) アンカー筋



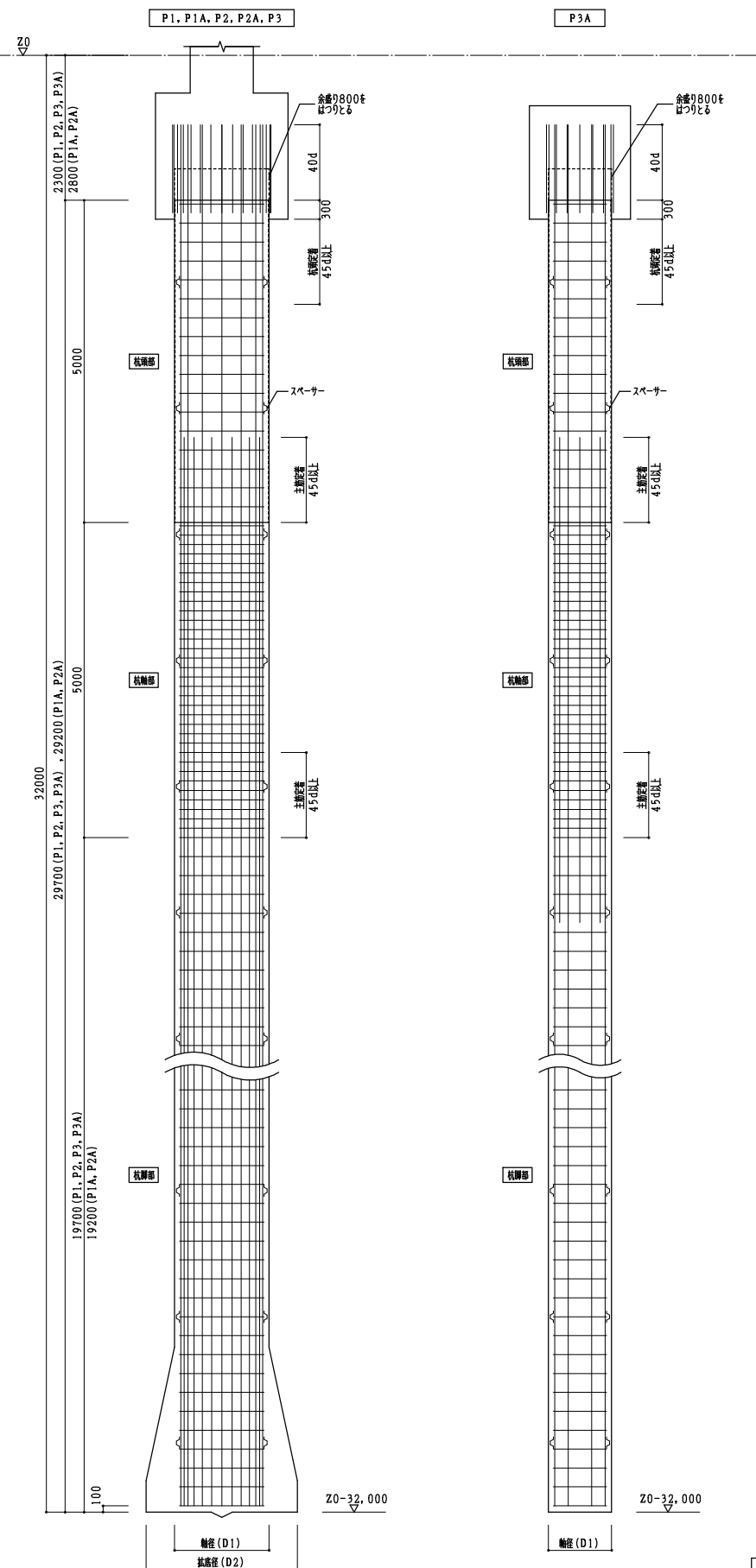
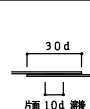
2) 巻筋、補強リング、スペーサー



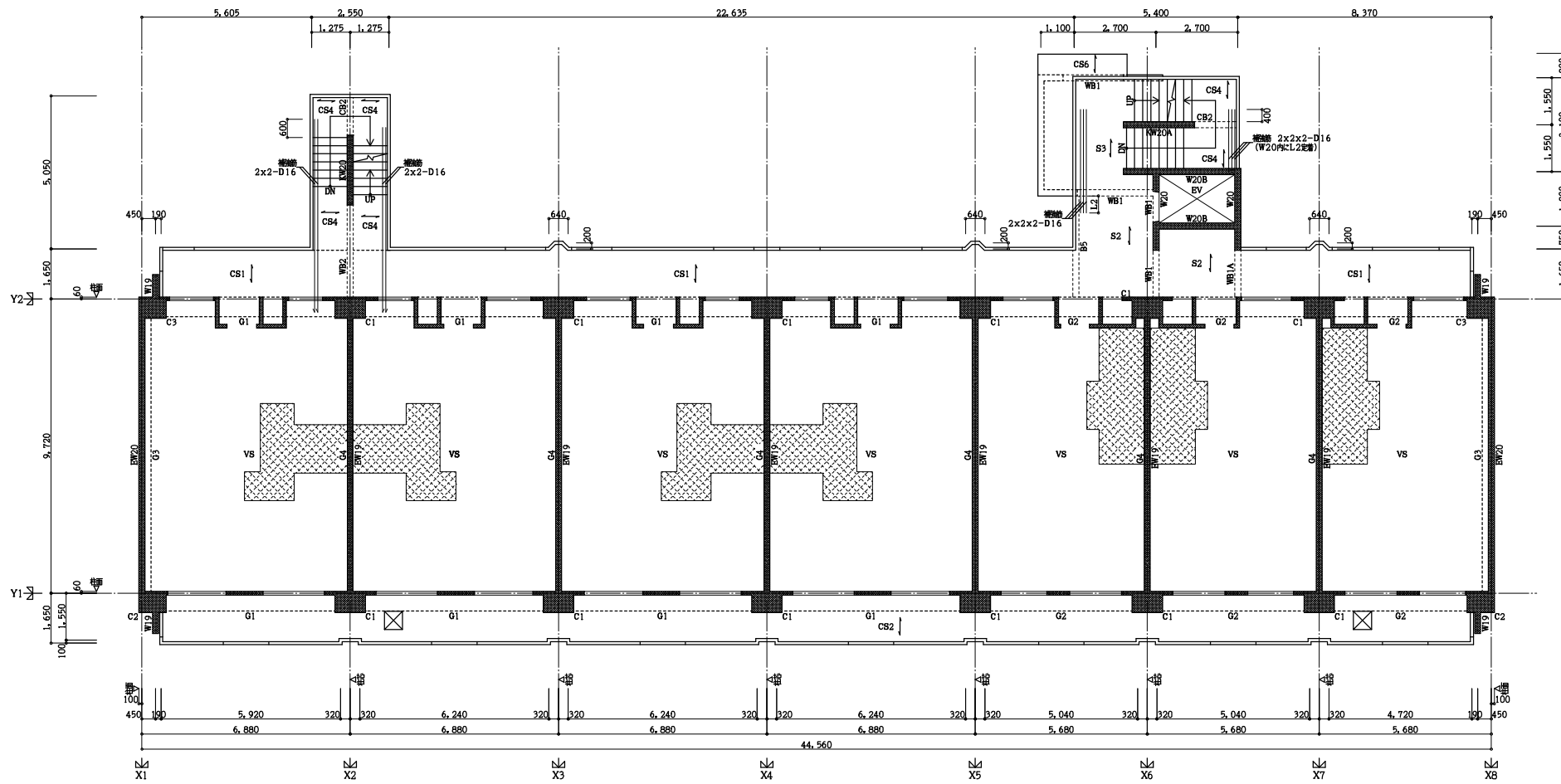
b) HOOP, 補強リング



c) HOOP 溶接長

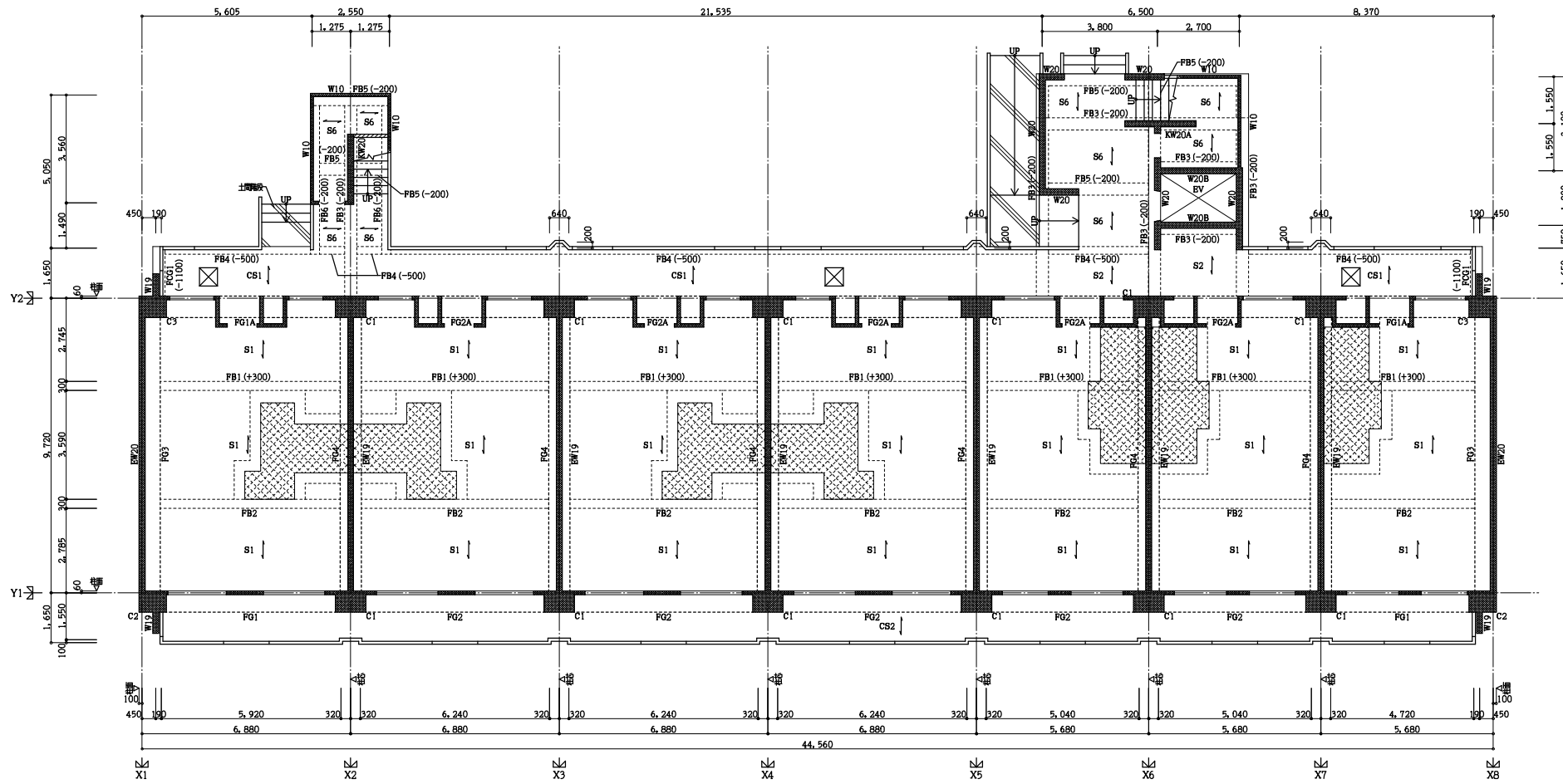


有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	杭リスト	S-12
縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100			
検 査	製 図	設 計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課
図 章	図 章	H30年3月	



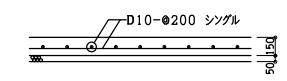
2階伏図 S=1/100

- 特記なき限り下記による
- 窓は W12 とする
 - 耐震スリット(完全スリット)は 軸組図 による
 - 床天端は Z±0 とする
 - スラブ天端は Z±0 とする
 - [斜線] 部分は スラブ段差 Z_n-100 を示す
 - — は 主筋方向 を示す
 - 床裏通孔は、技術仕様等を取付した取付補強金物とし、詳細の条件範囲内で使用する

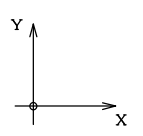


1階床伏図 S=1/100

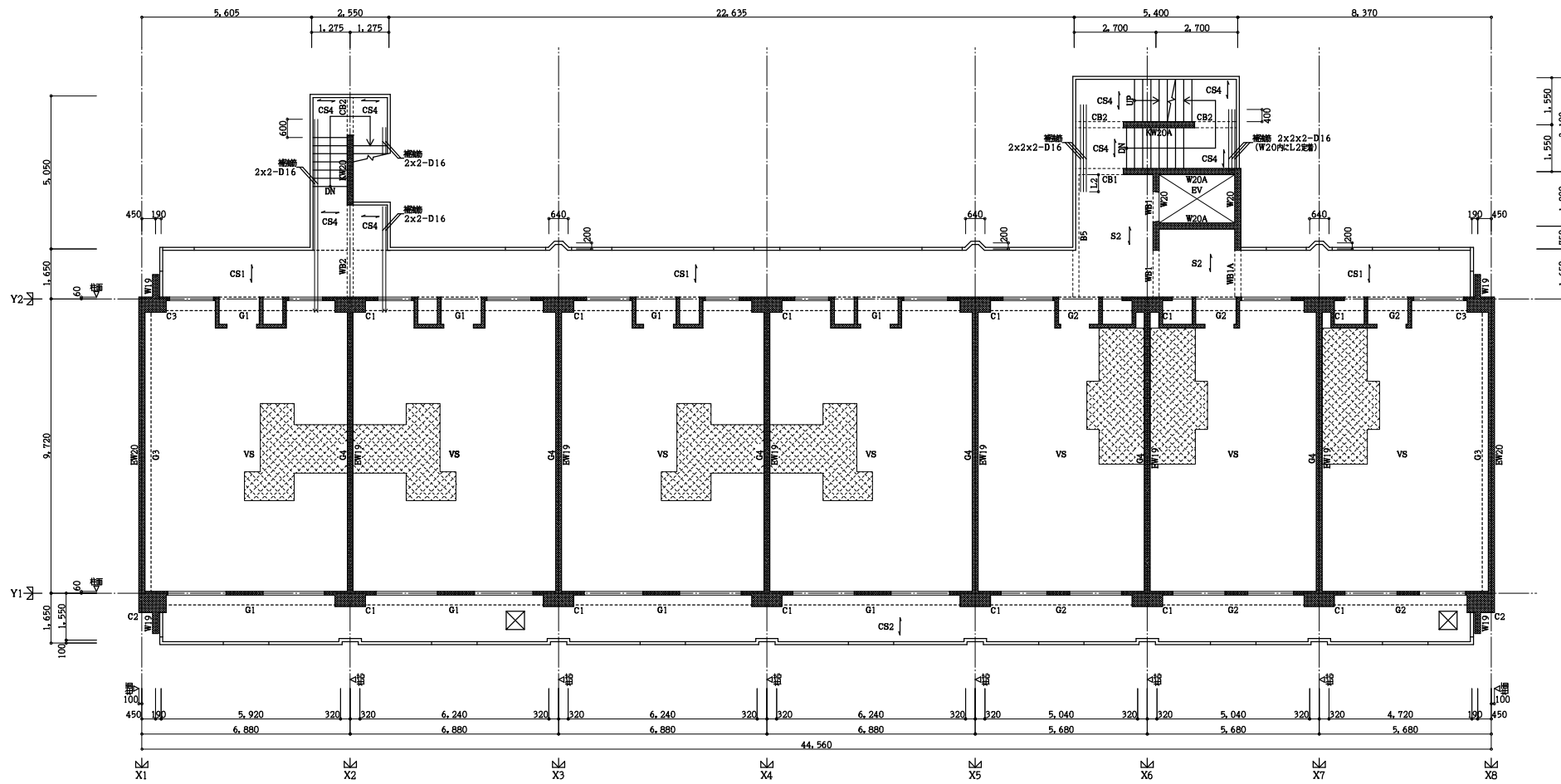
- 特記なき限り下記による
- 窓は W12 とする
 - [斜線] は CB10 とする
 - 耐震スリット(完全スリット)は 軸組図 による
 - 地中梁天端は Z0+200 とする
 - () 内は Z0からの天端レベル を示す
 - スラブ天端は Z1±0 (Z0+400) とする
 - [斜線] 部分は スラブ段差 Z1-100 を示す
 - [斜線] は 土間コンクリート(2) 範囲 を示す
 - — は 主筋方向 を示す
 - 床裏通孔は、技術仕様等を取付した取付補強金物とし、詳細の条件範囲内で使用する



土間コンクリート(2) S=1/30

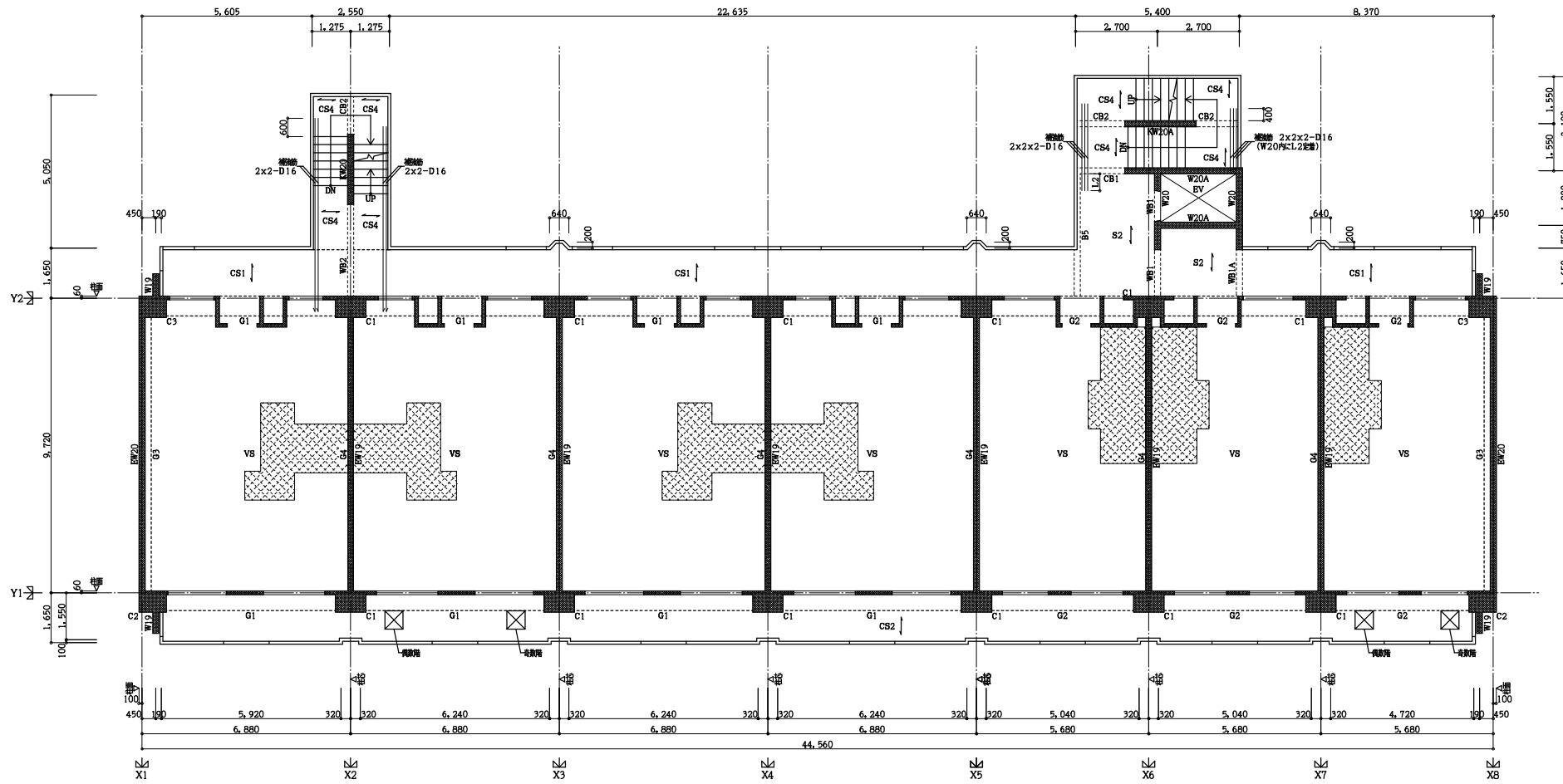


有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事(第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第1442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	1階床伏図、2階伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
検 査 回 数	検 査 回 数	設 計 H30年3月	S-14
愛知県建築局公共建築部公営住宅課			



7階伏図 S=1/100

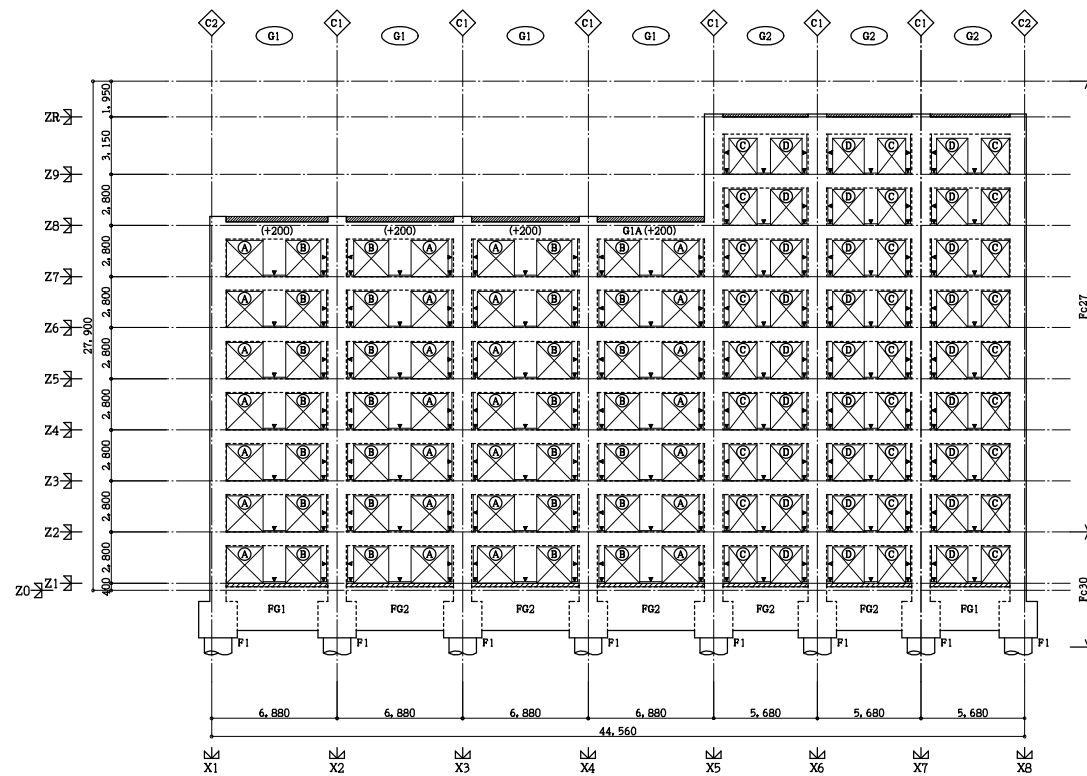
- 特記なき限り下記による
- 壁は W12 とする
 - 窓スリット(完全スリット)は 軸組図 による
 - 床天端は Z7±0 とする
 - スラブ天端は Z7±0 とする
 - 部分は スラブ段差 Z7-100 を示す
 - は 主筋方向 を示す
 - 床裏通孔は、技術仕様等を取付した取付補強金物とし、詳細の条件範囲内で使用する



3~6階伏図 S=1/100

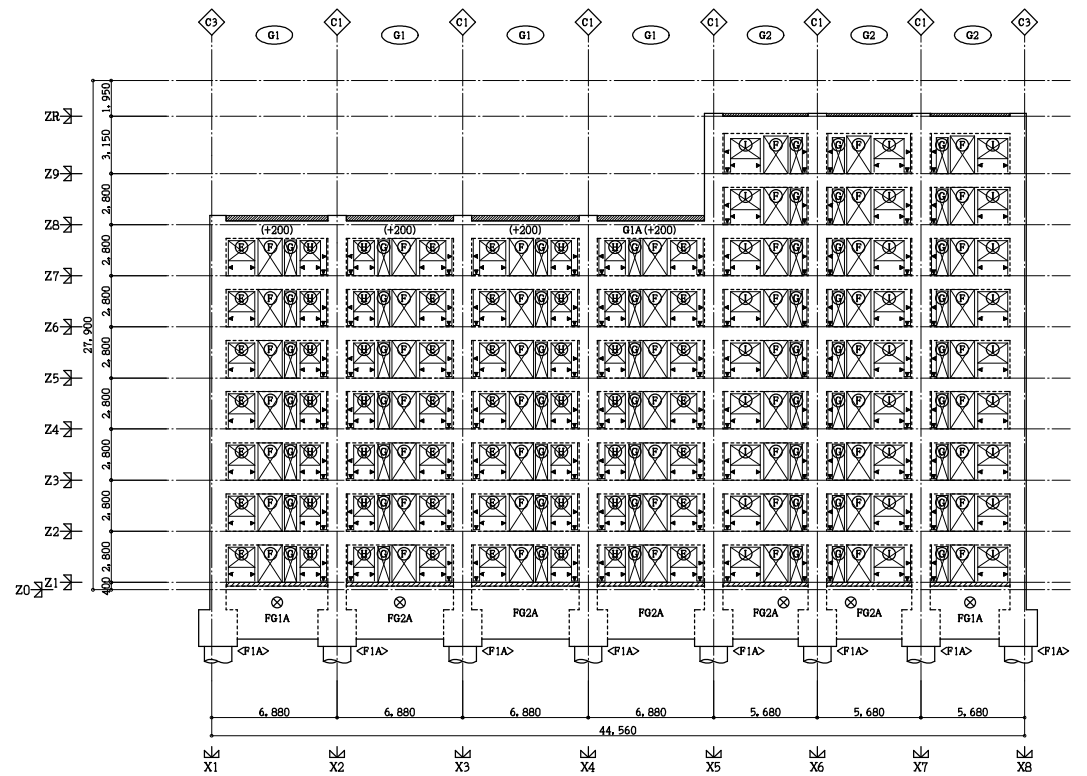
- 特記なき限り下記による
- 壁は W12 とする
 - 窓スリット(完全スリット)は 軸組図 による
 - 床天端は Zn±0 とする
 - スラブ天端は Zn±0 とする
 - 部分は スラブ段差 Zn-100 を示す
 - は 主筋方向 を示す
 - 床裏通孔は、技術仕様等を取付した取付補強金物とし、詳細の条件範囲内で使用する

有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事(第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第1442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	3~7階伏図	縮尺 S-15 A1: 1/100 A3: 1/200
製 図	製 図	設 計	
		H30年3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課



Y1通り軸組図 S=1/200

- Ⓐ 開口寸法・・・2020×1985 建具寸法・・・1900×1800
- Ⓑ 開口寸法・・・1920×1985 建具寸法・・・1800×1800
- Ⓒ 開口寸法・・・1520×1985 建具寸法・・・1400×1800
- Ⓓ 開口寸法・・・1720×1985 建具寸法・・・1600×1800

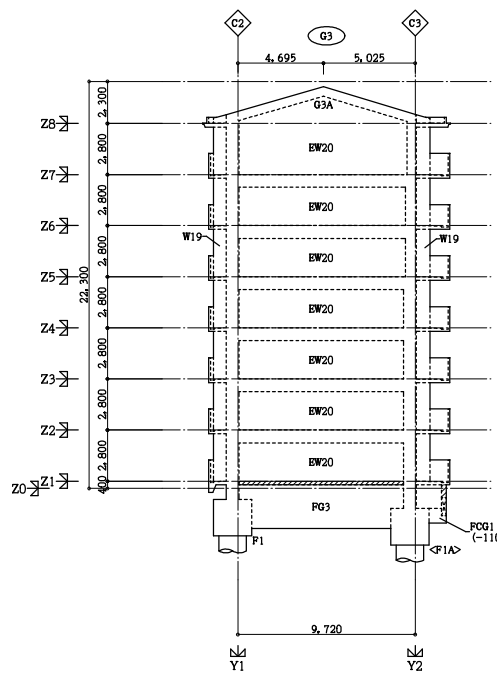


Y2通り軸組図 S=1/200

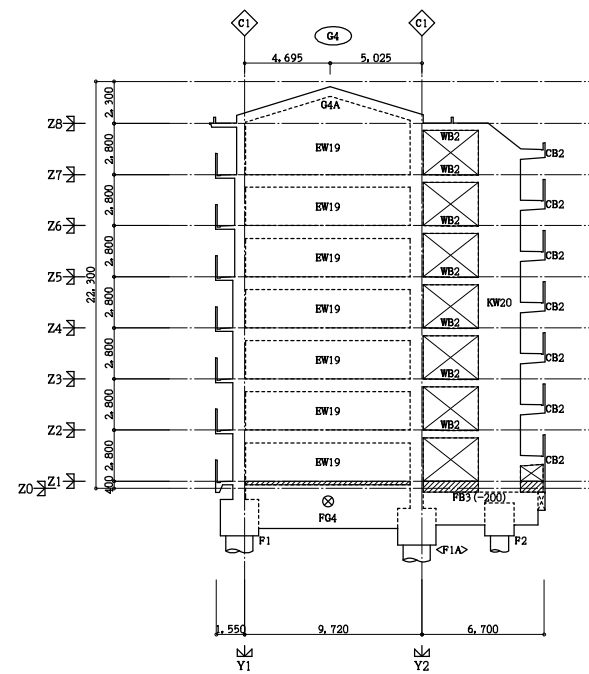
- Ⓑ 開口寸法・・・1440×1100 建具寸法・・・1320×950
- ⒫ 開口寸法・・・1330×2050
- Ⓖ 開口寸法・・・650×1965 建具寸法・・・550×1800
- Ⓖ 開口寸法・・・1120×1100 建具寸法・・・1000×950
- Ⓖ 開口寸法・・・1640×1100 建具寸法・・・1520×950

特記なき限り下記による	
○	基礎高は Z0-2600 とする
○	< 付符号は 基礎高 Z0-3100 とする
○	地中梁天端は Z0+200 とする
○	壁は W12 とする
○	▼ は 耐震スリット(完全スリット) を示す
○	梁天端は Zn±0 とする
○	[]内は Znからの天端レベル を示す
○	開口位置は 意匠図 による
○	⊗ は 人通り600φ を示す
○	▨ は 打掃 を示す

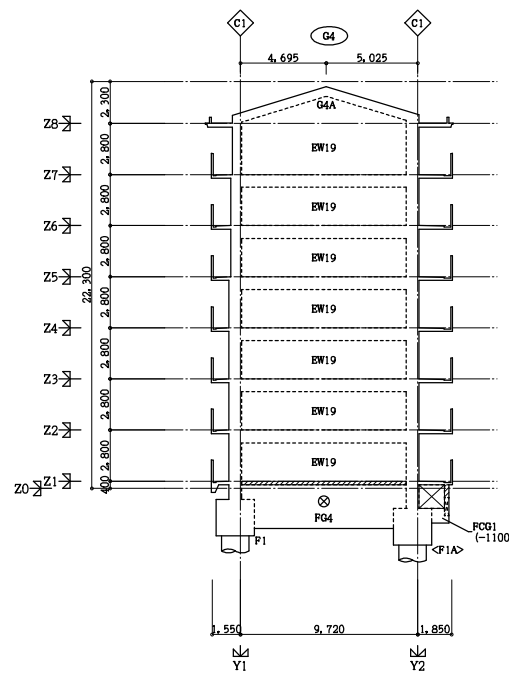
有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事(第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 総	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	軸組図(1)	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400
棟 図	棟 図	設 計	S-17
		H30年3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課



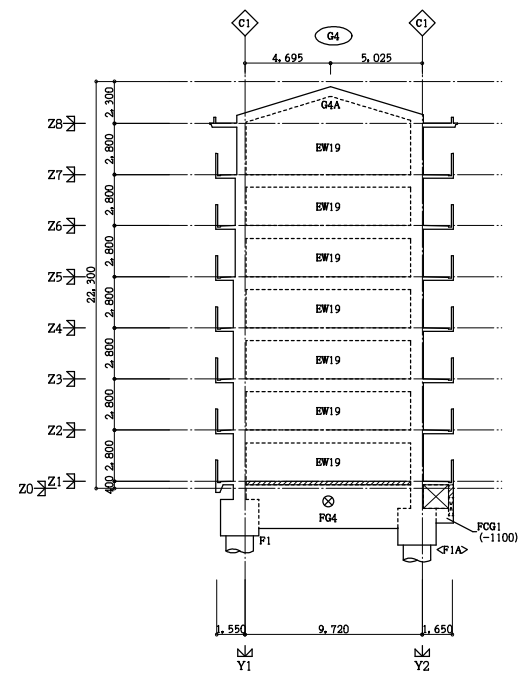
X1通り軸組図 S=1/200



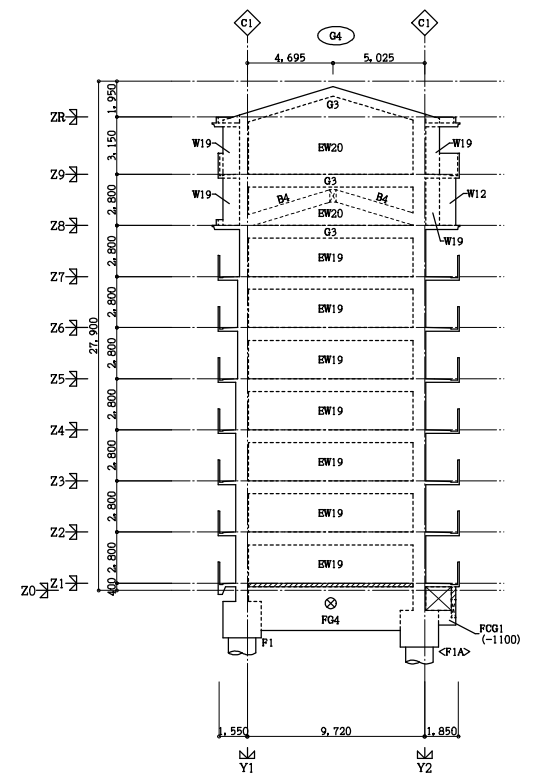
X2通り軸組図 S=1/200



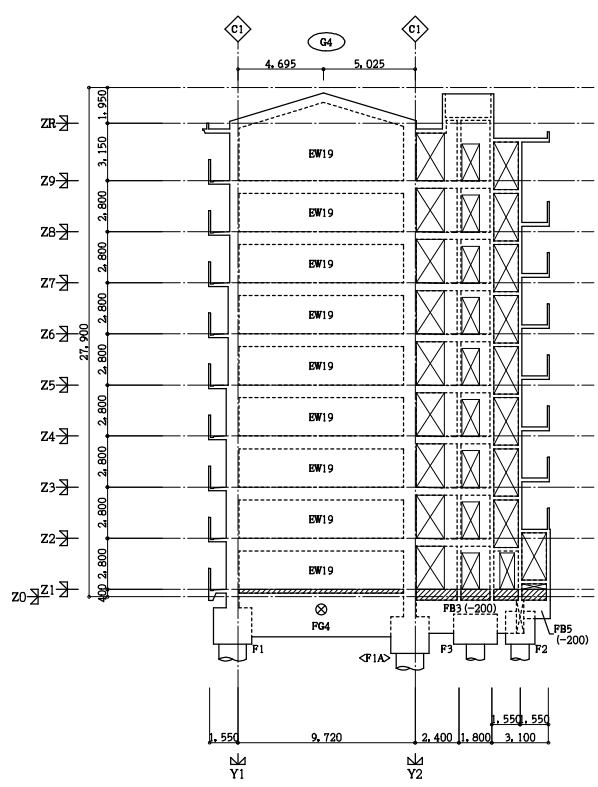
X3通り軸組図 S=1/200



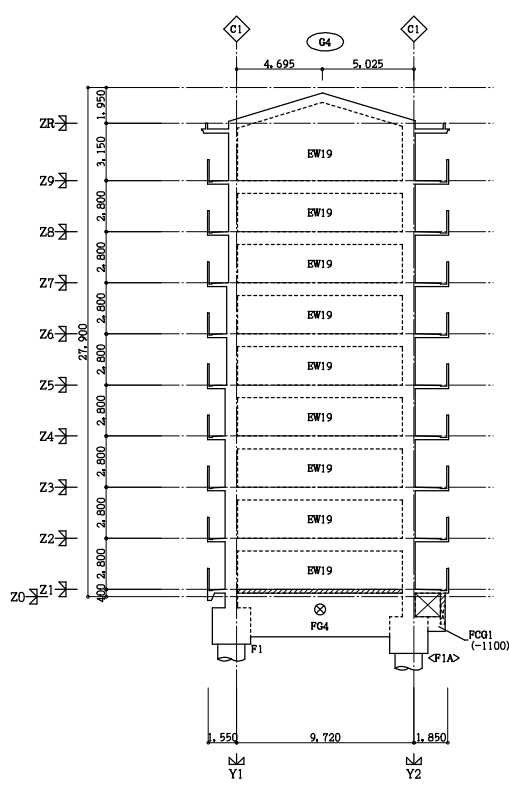
X4通り軸組図 S=1/200



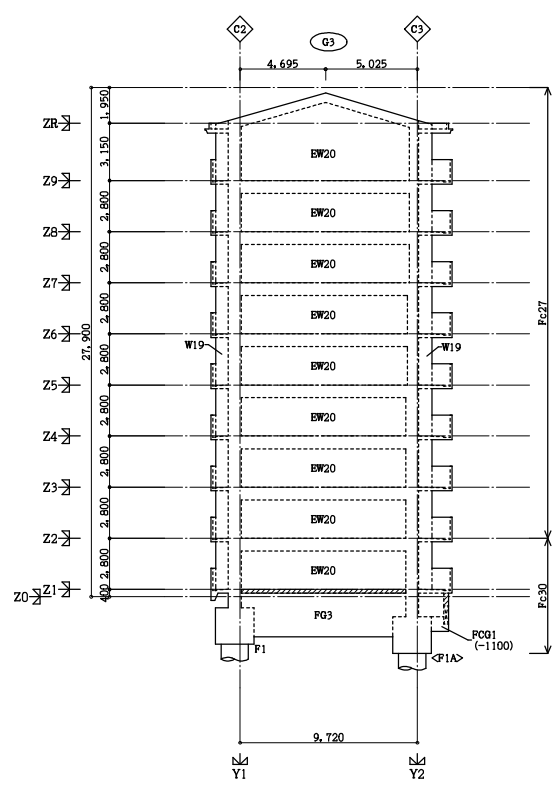
X5通り軸組図 S=1/200



X6通り軸組図 S=1/200



X7通り軸組図 S=1/200

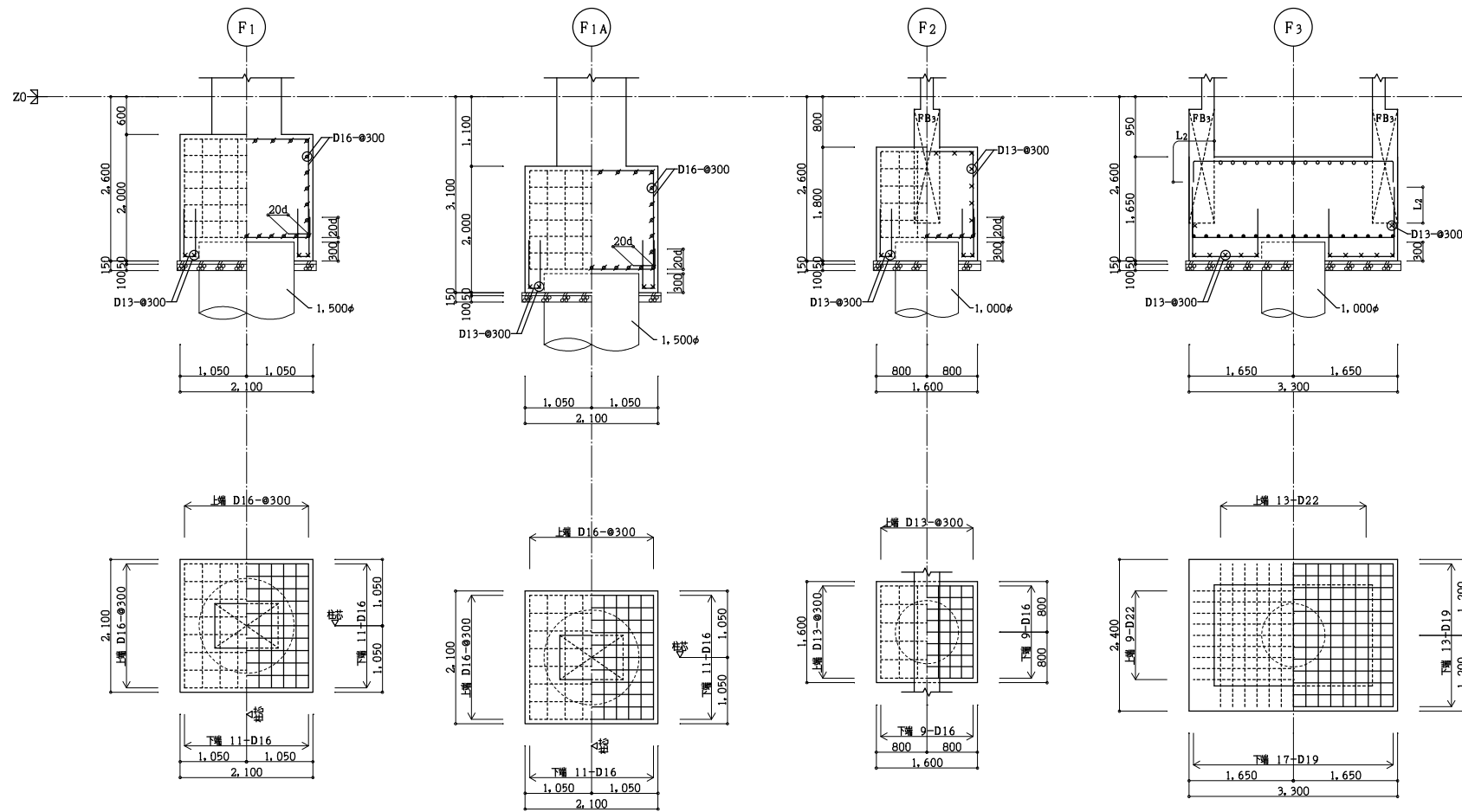


X8通り軸組図 S=1/200

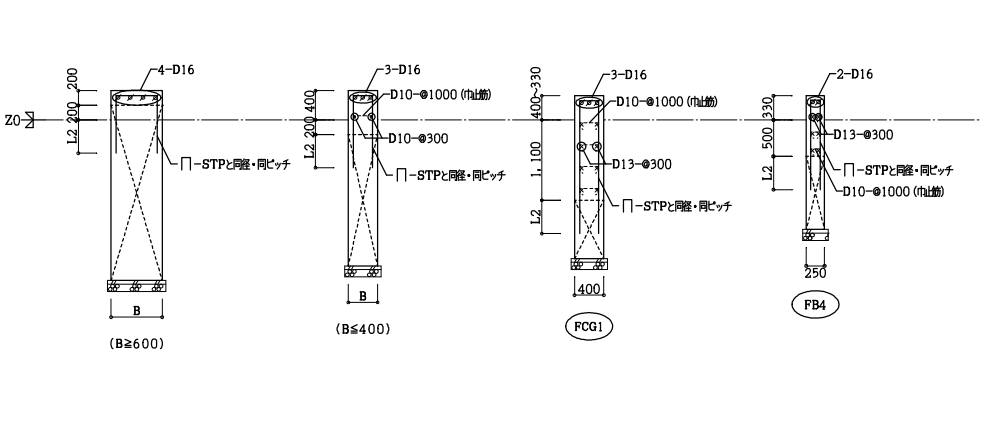
- 特記なき限り下記による
- 基礎高は Z0-2600 とする
 - < 付符号は 基礎高 Z0-3100 とする
 - 地中梁天端は Z0+200 とする
 - () 内は Z0からの天端レベルを示す
 - 梁天端は Zn±0 とする
 - 開口位置は 意匠図 による
 - ⊗ は 入道丸600φ を示す
 - 斜線は 打掃 を示す

有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事(第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	軸組図(2)	縮尺 S-18 A1: 1/200 A3: 1/400
検 査	検 査	設 計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課
図 章	図 章	H30年3月	

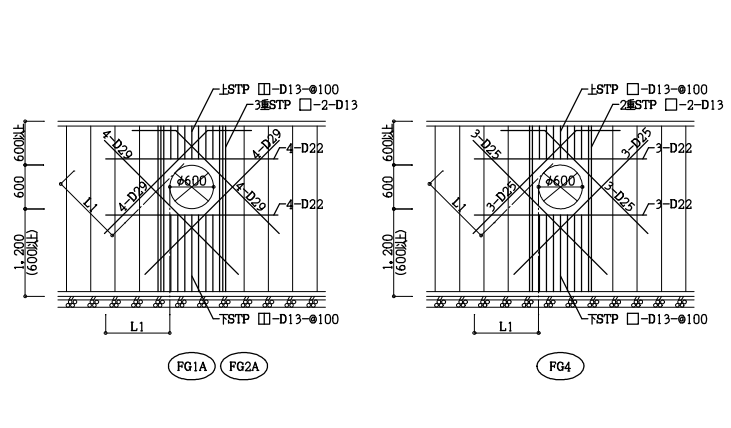
基礎リスト S=1/50



地中梁上打増し補強詳細図 S=1/50



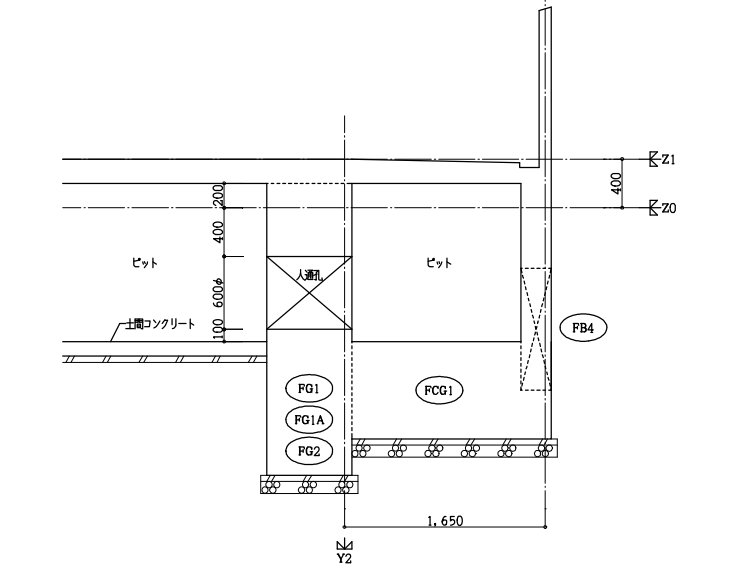
人通孔配置図 S=1/50



地中梁リスト S=1/50 ・止筋は D10-φ1000以内 とす

符号	FG1	FG1A	FG2	FG2A	FG3	FG4	FCG1	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面													
B x D	700 x 2400	700 x 2900	700 x 2400	700 x 2900	700 x 2400	700 x 2400	400 x 800	300 x 700	300 x 1450	400 x 1800	250 x 1000	400 x 1000	300 x 600
上端筋	10 - D32	9 - D32	6 - D32	6 - D32	9 - D32	9 - D32	4 - D22	3 - D22	3 - D19	4 - D25	2 - D22	4 - D22	3 - D19
下端筋	9 - D32	8 - D32	5 - D32	5 - D32	8 - D32	8 - D32	3 - D22	3 - D22	3 - D19	4 - D25	2 - D22	4 - D22	3 - D19
STP	□-D13-φ150	□-D13-φ150	□-D13-φ150	□-D13-φ150	□-D13-φ150	□-D13-φ150	□-D13-φ200	□-D10-φ200	□-D13-φ200	□-D13-φ200	□-D13-φ200	□-D13-φ200	□-D10-φ200
腹筋	12 - D13	14 - D13	12 - D13	14 - D13	12 - D13	12 - D13	2 - D10	2 - D10	5 x 2 - D13	4 x 2 - D10	3 x 2 - D13	3 x 2 - D10	2 - D10

1階 廊下下部ビット 断面図 S=1/30



有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160090号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	基礎リスト、地中梁リスト	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
検 査	検 査	設 計	S-19
図 回	図 回	H30年 3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課

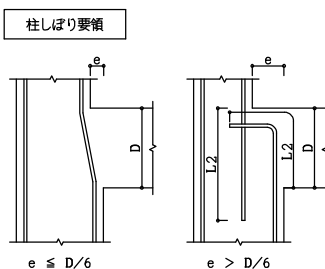
柱リスト S=1/30

・Sは KSS785 (高強度せん断補強筋) を示す
 ・柱梁接合部は全て □-D13-φ100 とする

・外周フープは スパイラル又は滑接付構造 とする (接合部内も含む)
 ・柱梁部の主筋D22, D25は フック付定着とする

階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 600	900 x 700	900 x 600
	主筋	12-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-S13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
4階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 700	900 x 700	900 x 700
	主筋	12-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-S13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
3階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 700	900 x 700	900 x 700
	主筋	14-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-S13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
2階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 700	900 x 700	900 x 700
	主筋	14-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-S13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
1階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 700	900 x 700	900 x 700
	主筋	14-D29, 6-D16	12-D29, 6-D16	12-D29, 6-D16
	フープ	□-S13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100

階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 500	900 x 700	900 x 500
	主筋	10-D22, 6-D16	10-D22, 6-D16	10-D22, 6-D16
	フープ	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
8階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 500	900 x 700	900 x 500
	主筋	10-D22, 6-D16	10-D22, 6-D16	10-D22, 6-D16
	フープ	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
7階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 500	900 x 700	900 x 500
	主筋	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
6階	符号	C 1	C 2	C 3
		断面		
	Dx × Dy	1000 x 600	900 x 700	900 x 600
	主筋	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16	10-D25, 6-D16
	フープ	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100



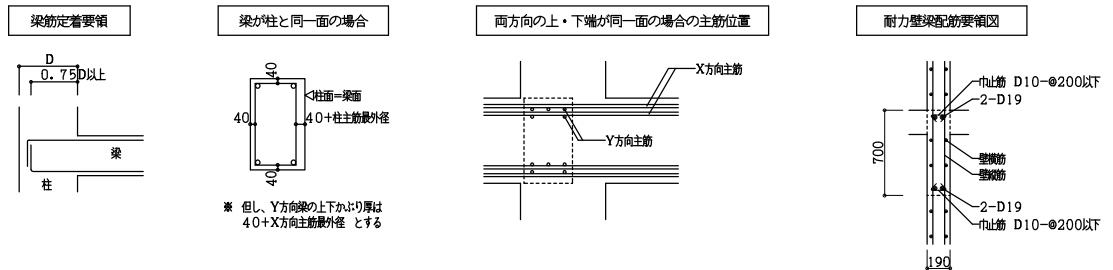
有限会社 青木設計工房		株式会社 山田設計		清水住宅建築工事 (第6工区)		図面番号 S-20
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 総		一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文		柱リスト 縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60		
検	製	検	製	設	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	
図	図	図	図	H30年3月		

・巾止筋は D10-φ1000以内 とする
・断面は 柱内にL2配置 とする

・< >内は カットオフ筋長さ を示す
但し、耐力壁等図 (L0/4+15d)の方が長い場合は耐力壁等図に従う

Z7	符 号	G 1		G 2		G 3	G 4
		端部	中央	端部	中央	全断面	全断面
	断 面						
	B x D	450 x 750		450 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	5 - D29 <2320>	3 - D29	5 - D29	5 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	4 - D29 <1840>	3 - D29	4 - D29 <1710>	3 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋
	断 面						
	B x D	550 x 750		550 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	6 - D29 <2320>	4 - D29	6 - D29	6 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	5 - D29	4 - D29	5 - D29 <1710>	4 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋
	断 面						
	B x D	550 x 750		550 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	7 - D29 <2310>	4 - D29	7 - D29	7 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	6 - D29 <1990>	4 - D29	6 - D29 <1990>	4 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋
	断 面						
	B x D	650 x 750		650 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	8 - D29 <2310>	5 - D29	8 - D29	8 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	8 - D29 <1980>	5 - D29	8 - D29 <1980>	5 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋
	断 面						
	B x D	650 x 750		650 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	8 - D29 <2310>	5 - D29	8 - D29	8 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	8 - D29 <1980>	5 - D29	8 - D29 <1980>	5 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋
	断 面						
	B x D	650 x 750		650 x 750		400 x 700	190 x 700
	上 端 筋	8 - D29 <2240>	5 - D29	8 - D29	8 - D29	4 - D19	2 - D19
	下 端 筋	8 - D29 <1920>	5 - D29	8 - D29 <1920>	5 - D29	4 - D19	2 - D19
	S T P	□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋

ZR	符 号	G 1		G 1A		G 2		G 3	G 4	G 3A, G 4A
		端部	中央	X4通端・中央	X5通端	端部	中央	全断面	全断面	全断面
	断 面	/		/						/
	B x D					450 x 950		400 x 500	400 x 500	
	上 端 筋					4 - D25	4 - D25	3 - D19	3 - D19	
	下 端 筋					3 - D25	3 - D25	3 - D19	3 - D19	
	S T P					□-D13-φ200		□-D13-φ200	□-D13-φ200	
	腰 筋	4 - D13		2 - D10	2 - D10					
	断 面	/		/						/
	B x D					450 x 750		400 x 700	190 x 700	
	上 端 筋					4 - D29	4 - D29	4 - D19	2 - D19	
	下 端 筋					3 - D29	3 - D29	4 - D19	2 - D19	
	S T P					□-D13-φ150		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋	
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋					
	断 面									
	B x D	450 x 950		450 x 950		450 x 750		400 x 700	190 x 700	400 x 500
	上 端 筋	4 - D29 <2500>	3 - D29	4 - D29	6 - D29 <2510>	4 - D29	4 - D29	4 - D19	2 - D19	3 - D19
	下 端 筋	3 - D29	3 - D29	4 - D29	4 - D29	3 - D29	3 - D29	4 - D19	2 - D19	3 - D19
	S T P	□-D13-φ150		□-D13-φ100		□-D13-φ100		□-D13-φ200	耐震壁 (BW19) タテ筋	□-D13-φ200
	腰 筋	Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		Y1通り:4-D13 Y2通り:4-D16		6 - D16	耐震壁 (BW19) ヨコ筋	2 - D10

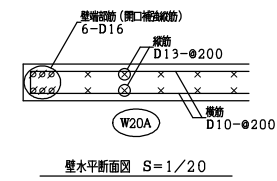


小梁リスト S=1/30 巾止筋は D10-φ1000以内 とする

符 号	B 1			B 2		B 3	B 4	B 5		CB 1		CB 2		WB 1	WB 1A	WB 2
	X1, X5 端	中央	X2, X4 端	端部	中央	全面	全面	端部	中央	元端	先端	元端	先端	全面	全面	全面
断 面																
B x D	350 x 650			350 x 650		350 x 650	300 x 650	200 x 400		200 x 650-550		200 x 550-450		200 x 400 (以上)	200 x 400 (以上)	200 x 400 (以上)
上 端 筋	3 - D22	3 - D22	4 - D22	4 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D19	2 - D16	2 - D16	4 - D19	2 - D19	4 - D19	2 - D19	2 - D16	2 - D16	2 - D19
下 端 筋	3 - D22	4 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D19	2 - D16	3 - D16	2 - D19	2 - D19	2 - D19	2 - D19	2 - D16	2 - D16	2 - D19
S T P	□-D10-φ200			□-D10-φ200		□-D10-φ200	□-D10-φ200	□-D10-φ200		□-D10-φ200		□-D10-φ200		□-D10-φ200	□-D10-φ200	□-D10-φ200
腰 筋	2 - D10			2 - D10		2 - D10	2 - D10	2 - D16		2 - D10		2 - D10		2-D10-φ200	2 - D16	2-D10-φ200

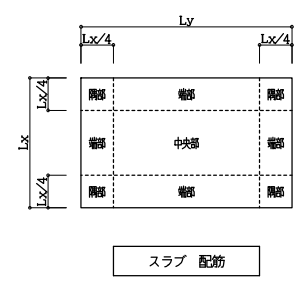
壁リスト S=1/30 巾止筋は D10-φ1000以内 とする

符 号	W 10	W 12	W 19	W 20	W 20A	W 20B	EW 19	EW 20	KW 20	KW 20A
厚 (D)	100	120	190	200	200	200	190	200	200	200
断 面 (立断面)										
縦 筋	D10-φ200 (S)	D10-φ200 (S)	D10-φ200 (D)	D13-φ200 (D)	D13-φ200 (D)	D13-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D13-φ200 (D)	D13-φ200 (D)
横 筋	D10-φ200 (S)	D10-φ200 (S)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D13-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)	D10-φ200 (D)
開 口 補 強 筋	縦 筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D16	6-D16			2-D16	4-D16
	横 筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D16	2-D16			2-D16	2-D16
	斜め筋				2-D13					
備 考	開口補強は壁端部筋を示す		開口補強は壁端部筋を示す		開口補強は壁端部筋を示す		開口補強は壁端部筋を示す		開口補強は壁端部筋を示す	



スラブリスト ()内は 非水溝厚 を示す

符 号	版 厚	位 置	主筋方向 (短辺方向)			配筋方向 (長辺方向)		
			端 部	中 央	隅 部	端 部	中 央	隅 部
S 1	200	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
S 2	200~170	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10, D13-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
S 3	170~150	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10, D13-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
S 4	180	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10, D13-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
S 5	150	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10, D13-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
S 6	150	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
CS 1	200~170 (130)	上端筋	D13-φ100	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ100	←	←	D10-φ200	←	←
CS 2	200~170 (130)	上端筋	D13-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
CS 2A	220	上端筋	D13-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
CS 3	220	上端筋	D13-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
CS 4	170~150 (130)	上端筋	D13-φ100	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ100	←	←	D10-φ200	←	←
CS 5	170 (150)	上端筋	D13-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ150	←	←	D10-φ200	←	←
CS 6	150	上端筋	D10, D13-φ200	←	←	D10-φ200	←	←
		下端筋	D10-φ200	←	←	D10-φ200	←	←



中空スラブ標準仕様書

1. 適用範囲

- 本仕様は鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の中空スラブ工法に適用する。
- 本設計図面は鋼製ワインディングパイプ使用（以下パイプ）を前提として設計されたものであり、他のパイプに適用することはできない。
- 各項に対して別図などで詳細指示がある場合は、それに従うこと。

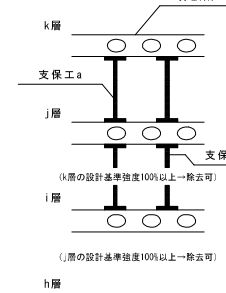
2. 使用部材

部材名称	材質	規格および材質
パイプ	亜鉛めっき鋼板	JIS-G3302 SGCC(相当品)
		JIS-G3313 SECC(相当品)

3. 中空スラブの施工

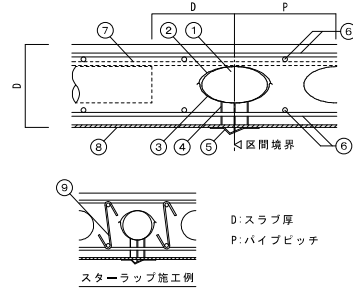
- 中空スラブの施工は下記に示す内容に準ずること。
 - 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」
 - 日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」
 - (社)公共建築協会「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」
- 監理者の許可無くパイプ割付を変更しないこと。

4. 仮設支保工



- 支保工の張り替えは、行わないこと。
- 支保工の存置期間は、設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとする。構造計算により十分な安全が確認されるまでとする。(コンクリート打設後、4週以上が望ましい。)
- 多層の場合には、支保工二層分打設階のスラブを受ける様に、打設階スラブ(k層)が上記の(2)を確認出来たうえで、支保工bを除去できる。
- スラブ下の支保工を早期取り外しすると、有害なたわみの原因となるので留意のこと。
- 上記以外については、JASS5(日本建築学会)に従う。
- 上記記載なき支保工計画については、監理者の承諾を得ること。

5. 中空スラブ標準構成図

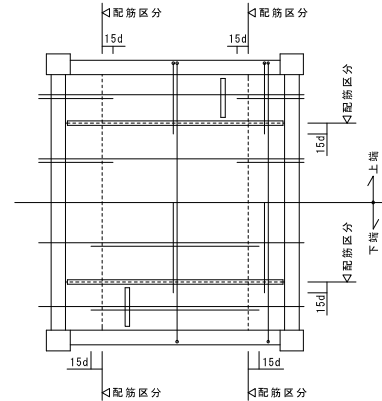


符号	名称
1	パイプ
2	番線
3	受金物
4	受台
5	ウェッジ
6	スラブ筋
7	スペーサー筋
8	型枠
9	スターラップ(巾止め筋)

D: スラブ厚
P: パイプピッチ

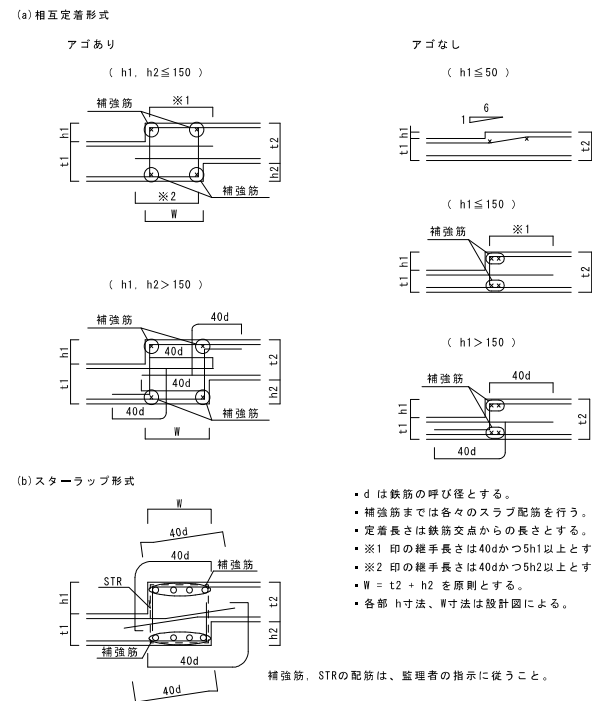
* 右図は構成図例を示す。従って、詳細構成、パイプ寸法、鉄筋かぶり、スペーサー筋有無、スターラップの有無等は、別途スラブリスト、中空スラブ断面図等を参照のこと。

6. 配筋要領図・余長



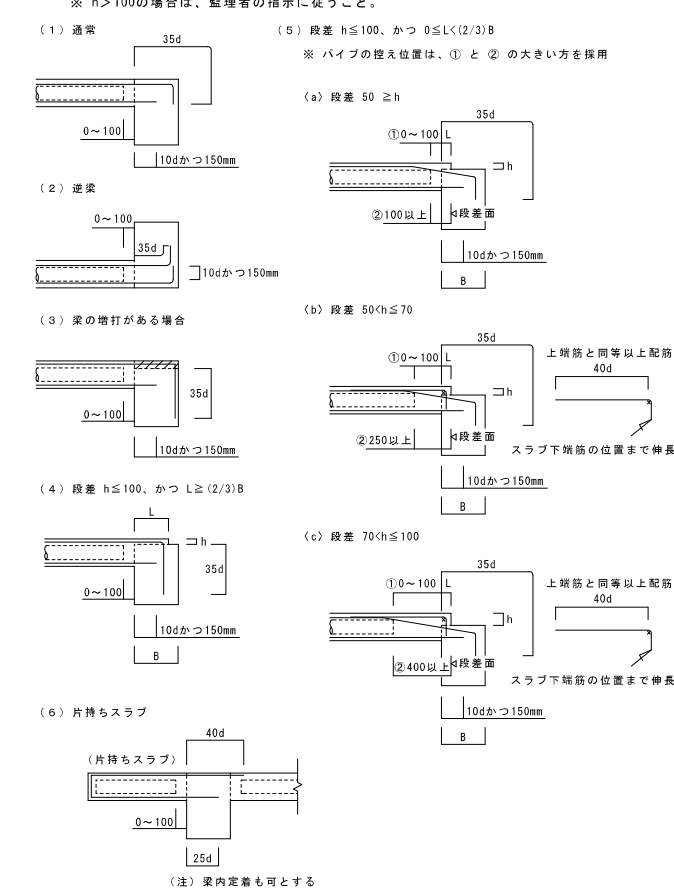
7. 段差部配筋要領図

コンクリート強度により継手、定着長を変更する場合は、監理者の指示に従うこと。

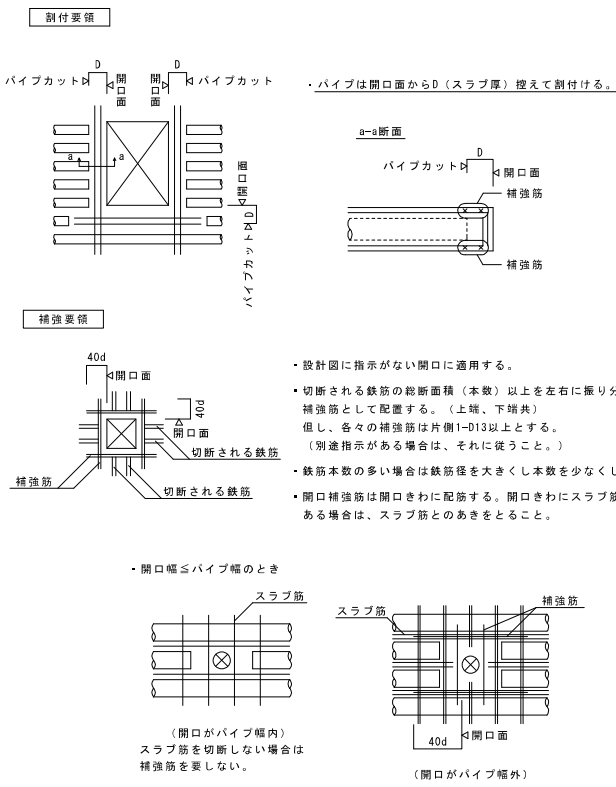


8. 大梁定着配筋要領図

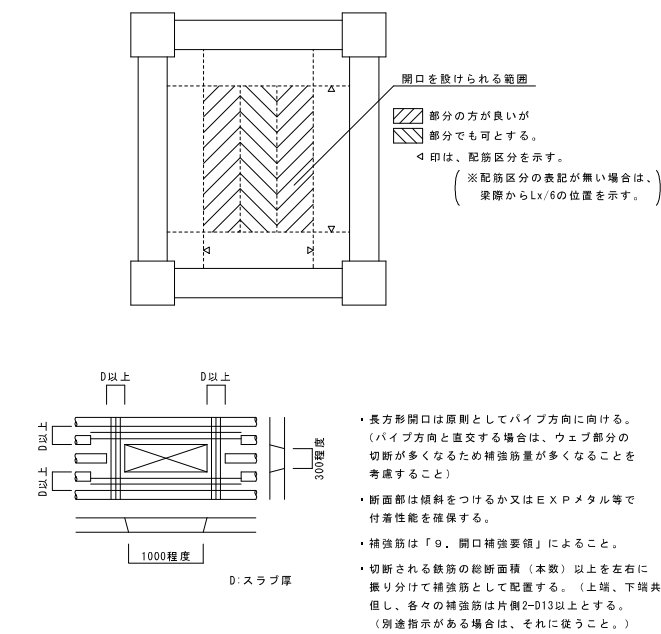
コンクリート強度により定着長を変更する場合は、監理者の指示に従うこと。



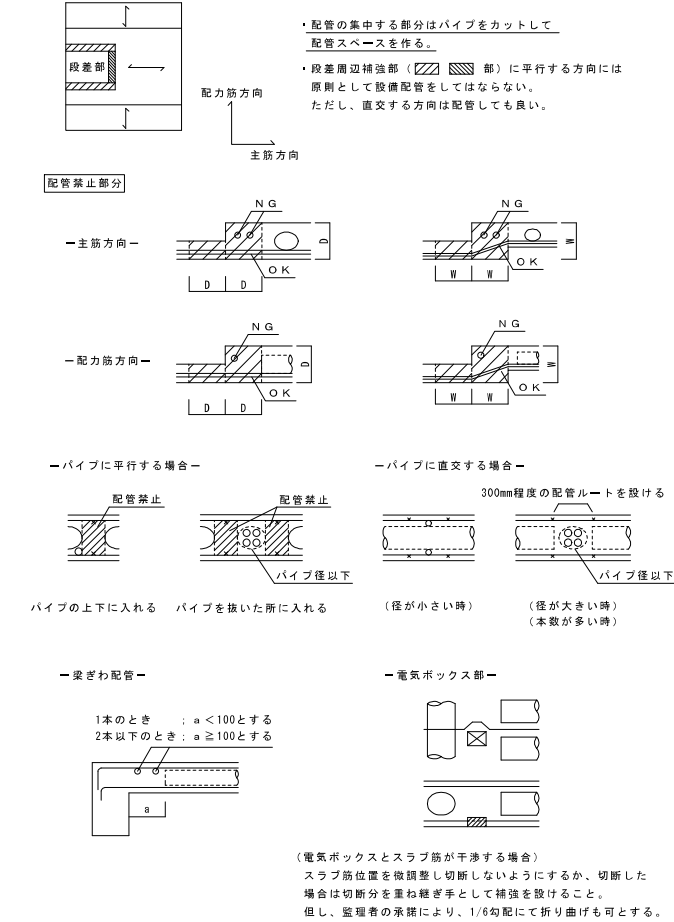
9. 開口割付・補筋要領



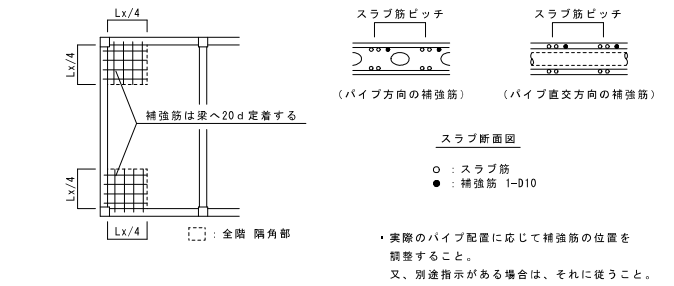
10. 仮設開口



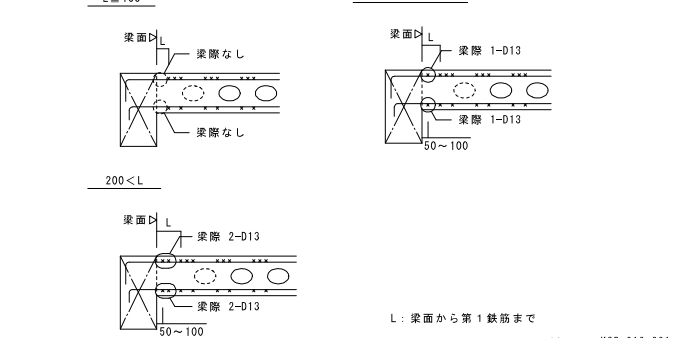
11. 中空スラブ内設備配管

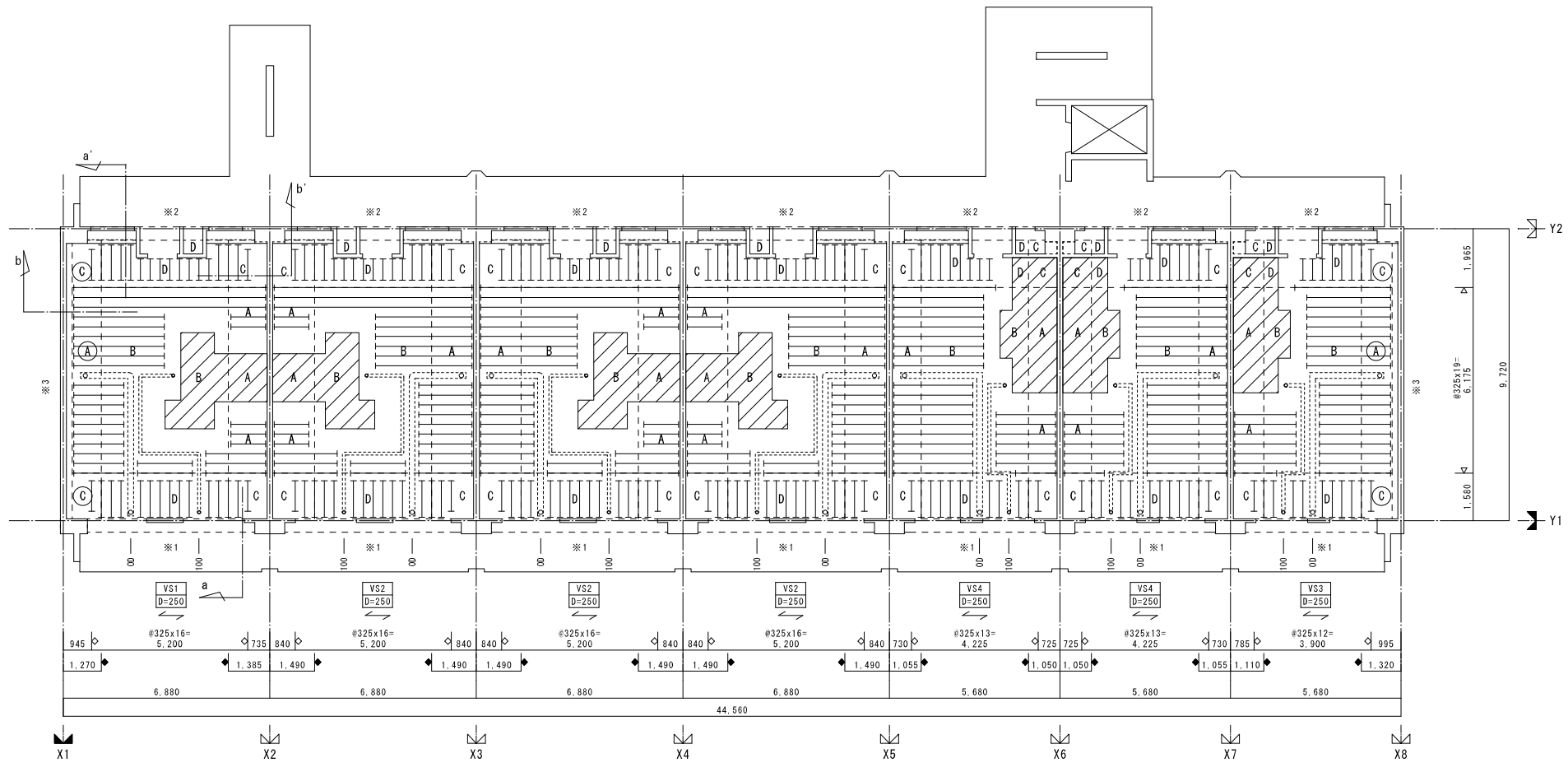


12. 隅角部の補筋要領



13. 梁際中空スラブ配筋要領

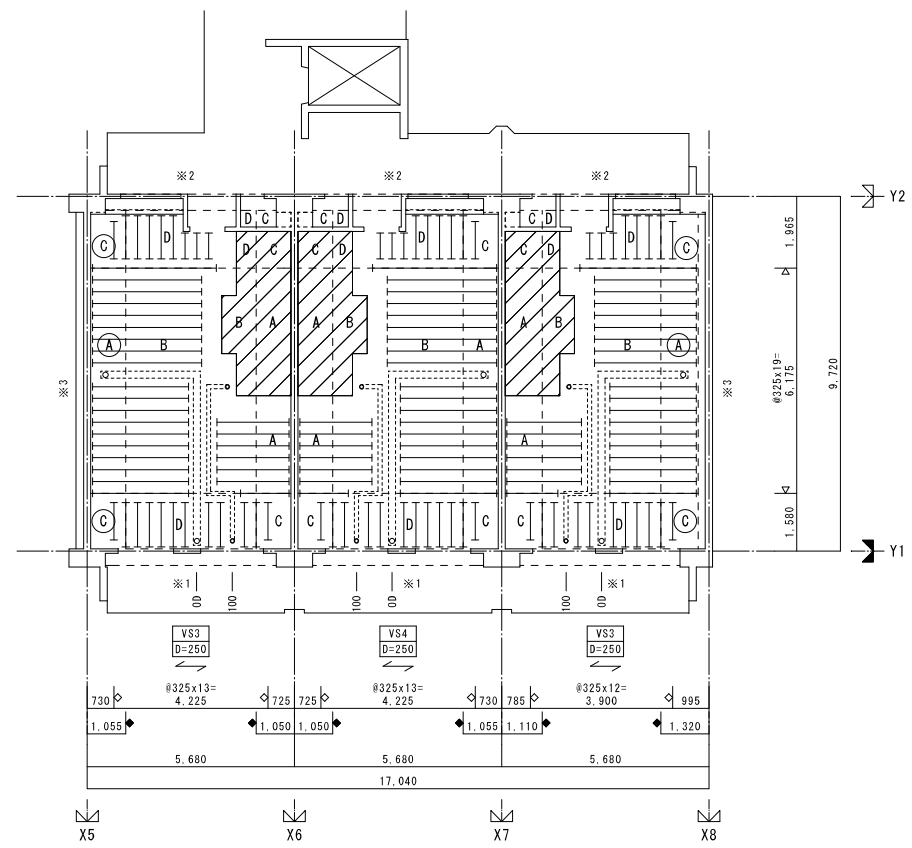




2～7階中空スラブ伏図 (見下げ図) 1/100

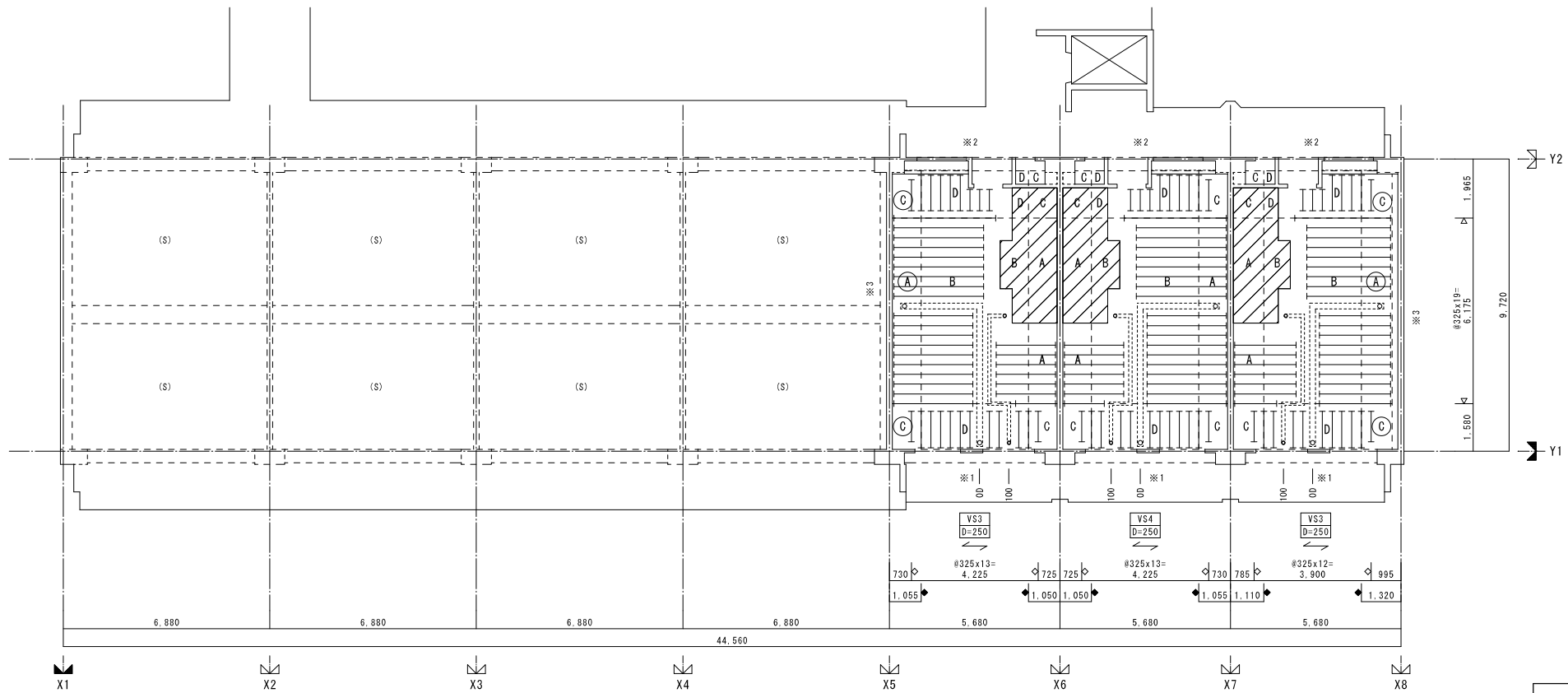
- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
 - ← は主筋方向を示す。
 - ┆ はパイプ径φ-200x100を示す。
 - ▷ は第1パイプ位置および配筋区分位置を示す。
 - ◇ は第1パイプ位置を示す。
 - ◆ は配筋区分位置を示す。
 - 中空スラブ天端レベル
 - Zn ± 0 を示す。(D=250:φ-200x100)
 - ▨ Zn - 100 を示す。(t=150)
 段差内Zn-100の配筋区分は下端筋を示す。
(中空スラブ欠込み部補強要領を参照)
 - 中空スラブ補強
 - ※1～※3 は周辺受梁ねじれ補強位置を示す。
 - その他
 - 100: 硬質塩化ビニル管 (薄肉) φ-100
 - OD: オーバルダクト φ-190 x 100
 中空スラブ断面配筋
 a-a' 主筋方向断面 b-b' 配筋方向断面 位置を示す。

有限会社 青木設計工房		株式会社 山田設計		清水住宅建築工事 (第6工区)		図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠		一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文		2～7階中空スラブ伏図 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200		S-24
検	製	検	製	設	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	
図	図	図	図	計	H30年 3月	



9階中空スラブ伏図 (見下げ図) 1/100

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
 - ← は主筋方向を示す。
 - ┌┐ はパイプ径φ-200x100を示す。
 - ▷ は第1パイプ位置および配筋区分位置を示す。
 - ◇ は第1パイプ位置を示す。
 - ◆ は配筋区分位置を示す。
 - 中空スラブ天端レベル
 - Zn ± 0 を示す。(D=250: φ-200x100)
 - ▨ Zn - 100 を示す。(t=150)
 段差内Zn-100の配筋区分は下端筋を示す。
(中空スラブ欠込み部補強要領を参照)
 - 中空スラブ補強
 - ※1~※3 は周辺受梁ねじれ補強位置を示す。
 - その他
 - 100 : 硬質塩化ビニル管 (薄肉) φ-100
 - 00 : オーバルダクト φ-190 x 100

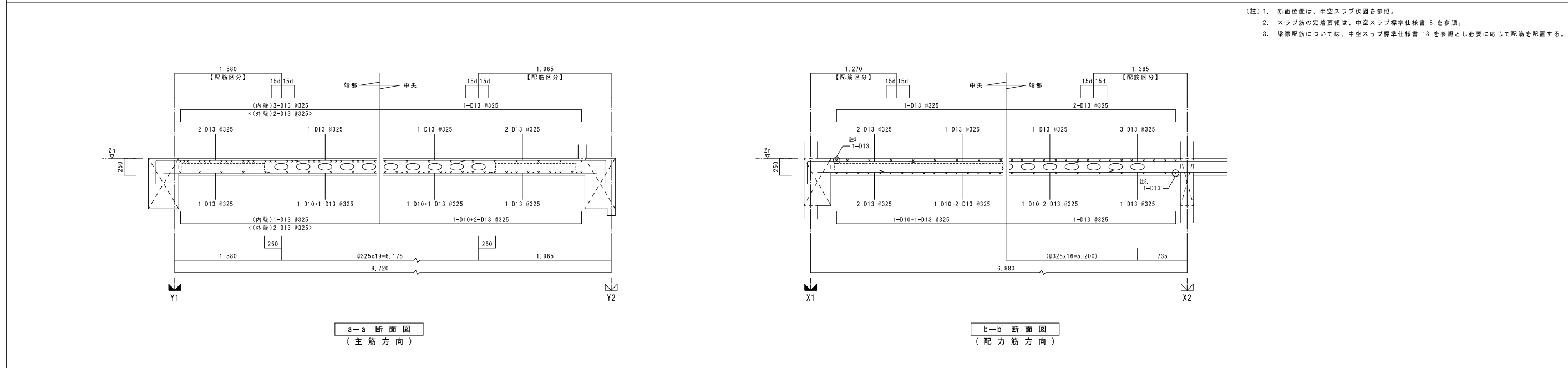
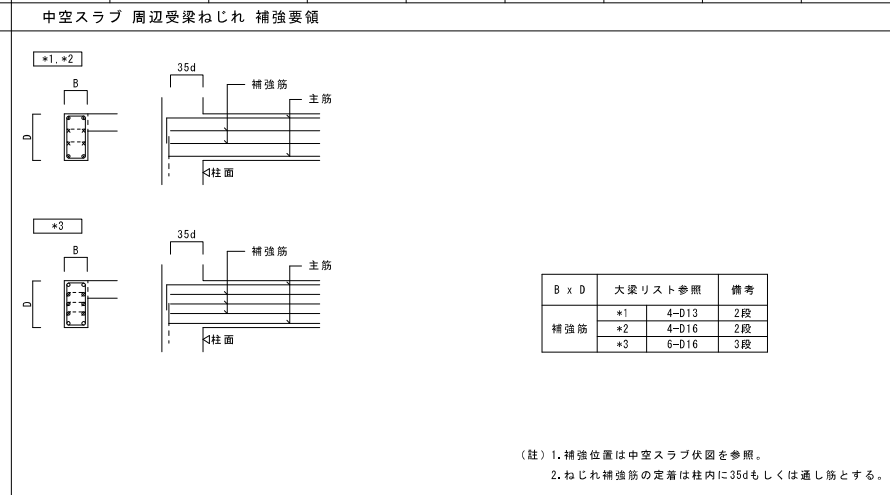
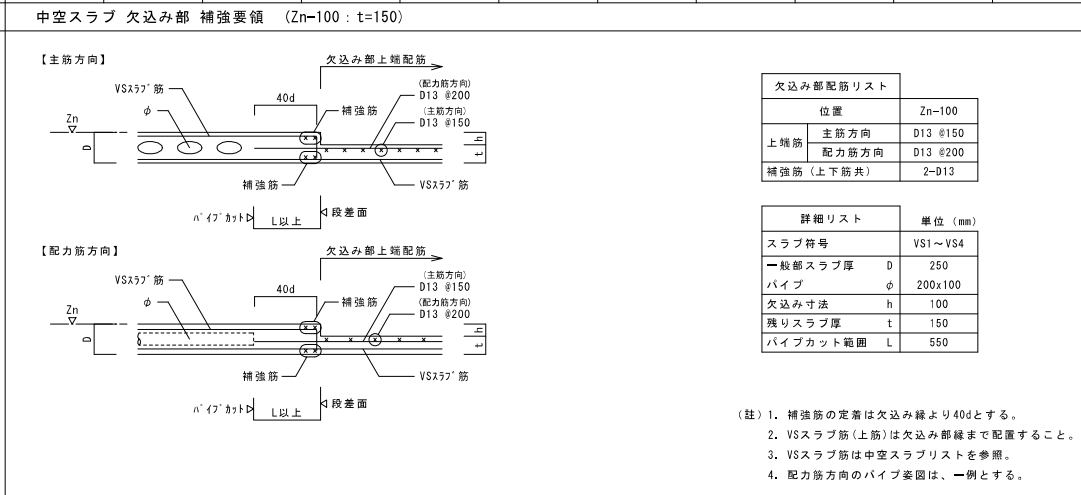
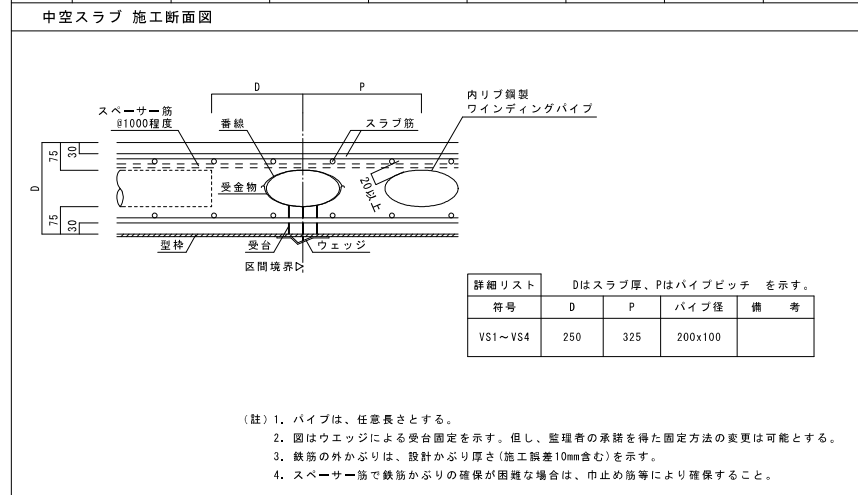


8階中空スラブ伏図 (見下げ図) 1/100

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
 - ← は主筋方向を示す。
 - ┌┐ はパイプ径φ-200x100を示す。
 - ▷ は第1パイプ位置および配筋区分位置を示す。
 - ◇ は第1パイプ位置を示す。
 - ◆ は配筋区分位置を示す。
 - 中空スラブ天端レベル
 - Zn ± 0 を示す。(D=250: φ-200x100)
 - ▨ Zn - 100 を示す。(t=150)
 段差内Zn-100の配筋区分は下端筋を示す。
(中空スラブ欠込み部補強要領を参照)
 - 中空スラブ補強
 - ※1~※3 は周辺受梁ねじれ補強位置を示す。
 - その他
 - 100 : 硬質塩化ビニル管 (薄肉) φ-100
 - 00 : オーバルダクト φ-190 x 100
 - (S) は中空スラブ以外を示す。

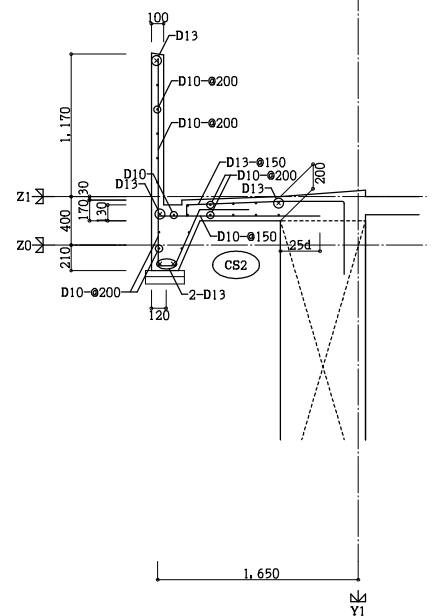
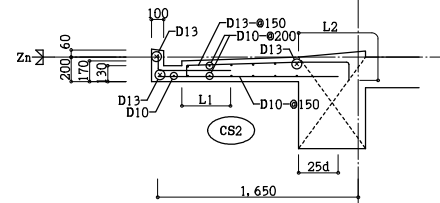
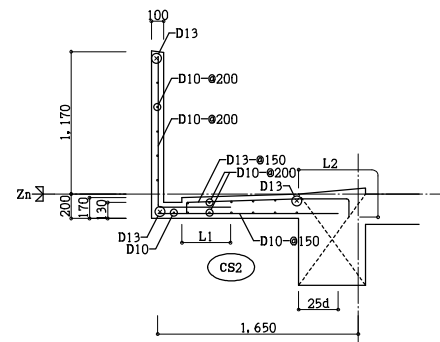
有限会社 青木設計工房		株式会社 山田設計		清水住宅建築工事 (第6工区)		図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 総		一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文		8、9階中空スラブ伏図		縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200 S-25
検 図	製 図	検 図	製 図	設 計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	
				H30年 3月		

記号	VS1												VS2												VS3												VS4											
	φ-200x100 #325												φ-200x100 #325												φ-200x100 #325												φ-200x100 #325											
	主筋方向						配筋筋方向						主筋方向						配筋筋方向						主筋方向						配筋筋方向																	
位置	外端		中央		内端		両端		中央		両端		中央		外端		中央		内端		両端		中央		両端		中央		両端		中央																	
断面	(A)	(C)	B	D	A	C	D	(C)	C	B	(A)	A	C	B	D	D	C	B	A	(A)	(C)	B	D	A	C	D	(C)	C	B	(A)	A	C	B	D	D	C	B	A										
上筋筋	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	2-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D10+1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13												
下筋筋	2-D13	2-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D10+1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13													

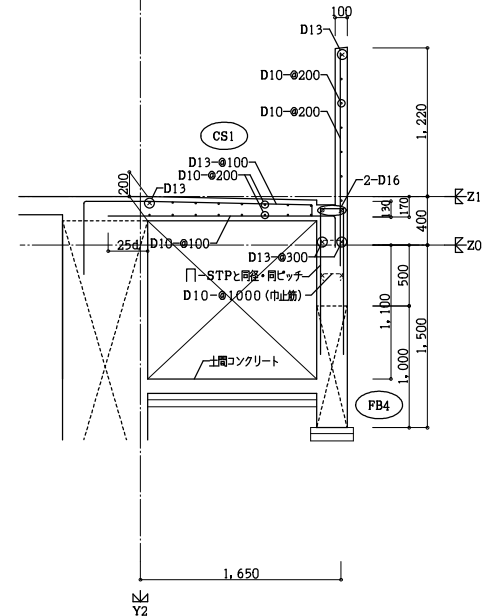
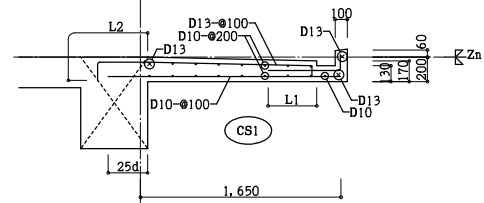
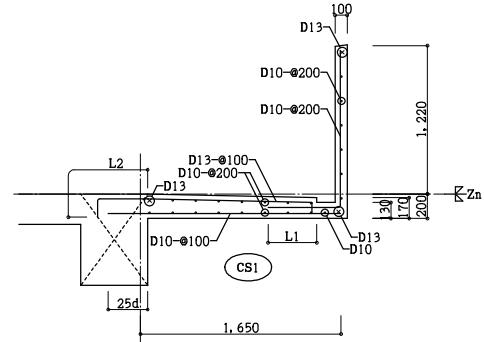


有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160090号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 総	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	中空スラブリスト、施工断面図 縮尺 A1: 1/30 補強要領、断面配筋図 A3: 1/60	S-26
検 査	製 図	設 計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課
図 庫	図 庫	H30年 3月	

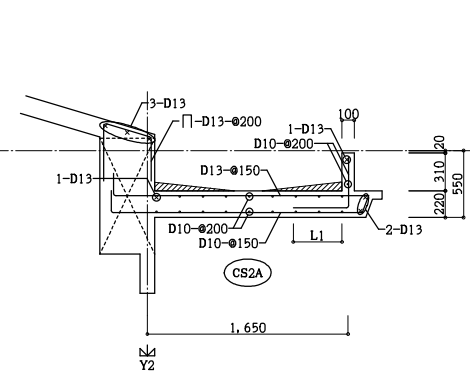
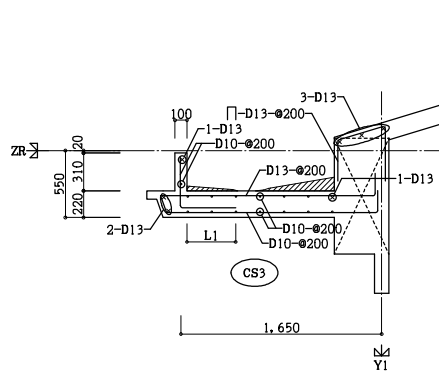
バルコニー詳細図 S=1/30



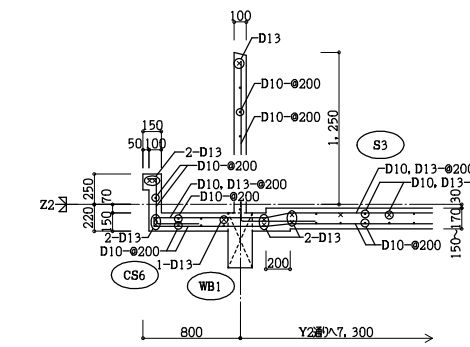
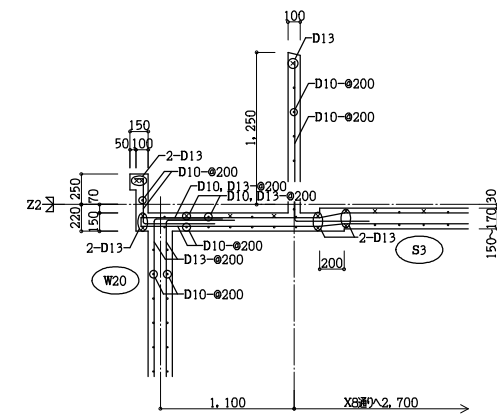
廊下詳細図 S=1/30



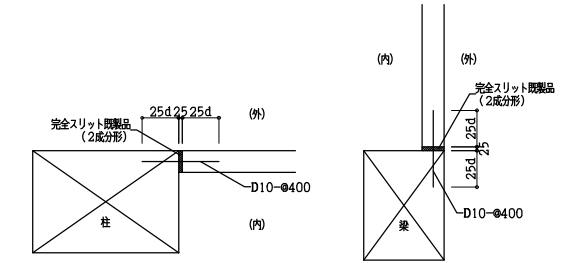
庇詳細図 S=1/30



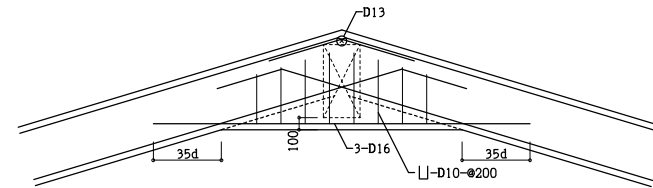
エントランス庇 詳細図 S=1/30



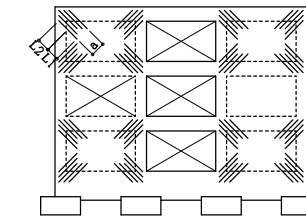
構造スリット (詳細な形状は意匠図による)



屋根様まわり詳細図 S=1/30

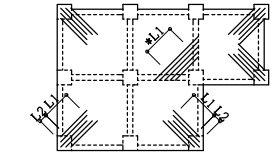


外壁隅部の補強筋



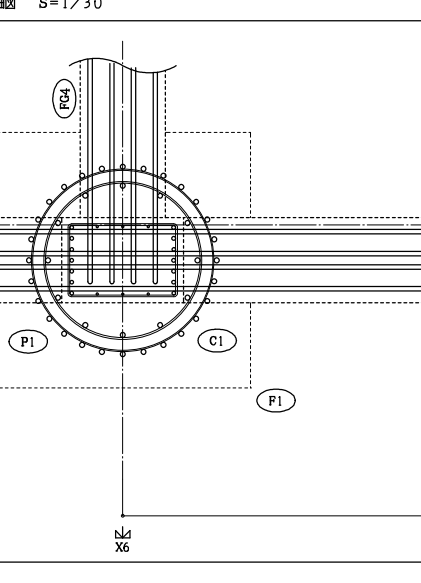
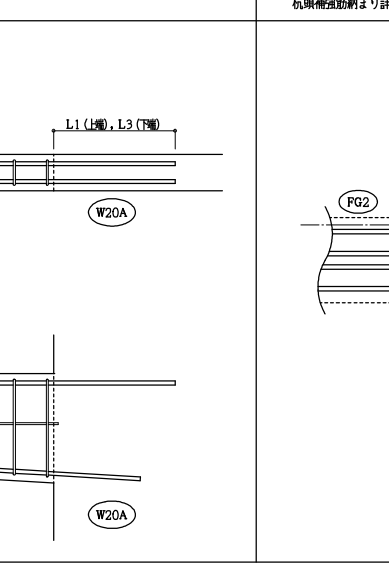
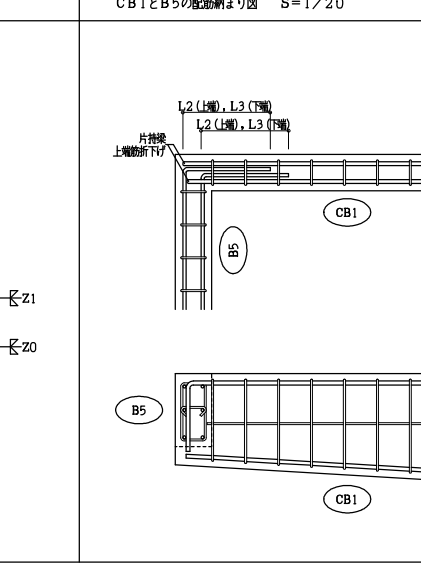
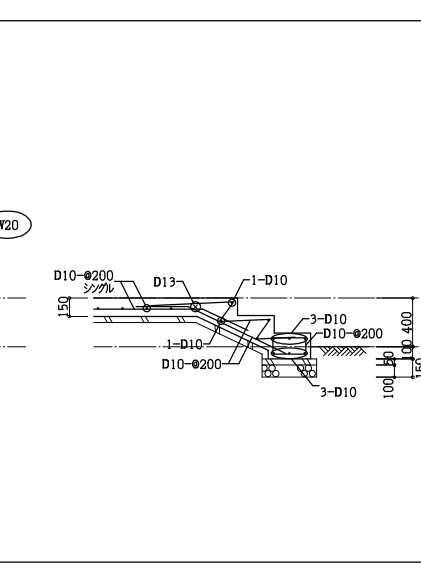
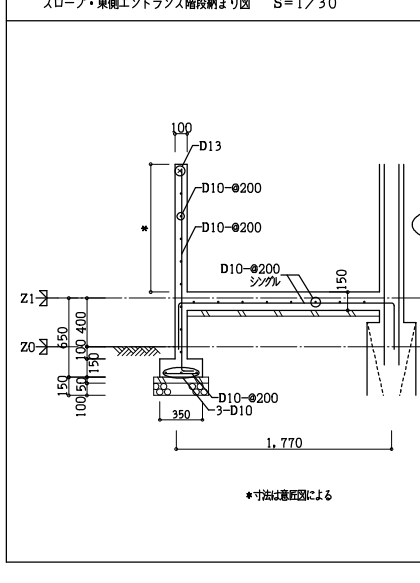
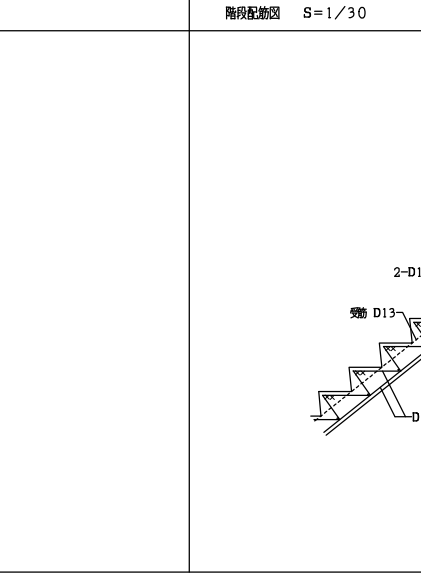
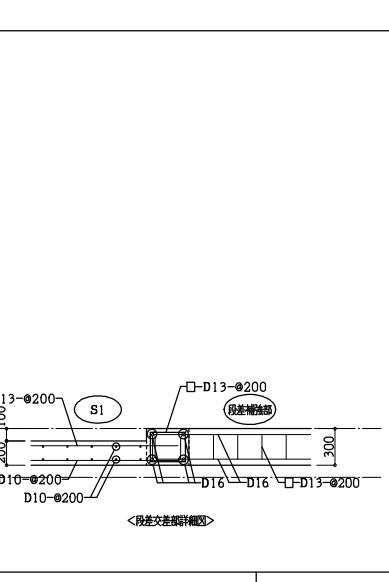
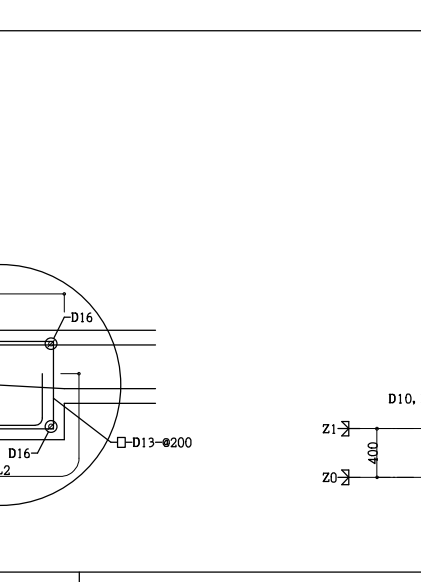
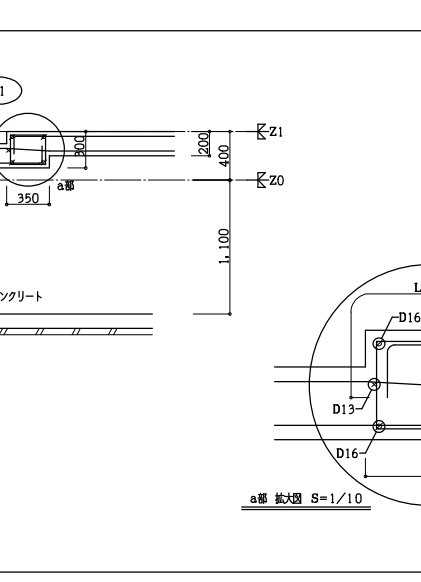
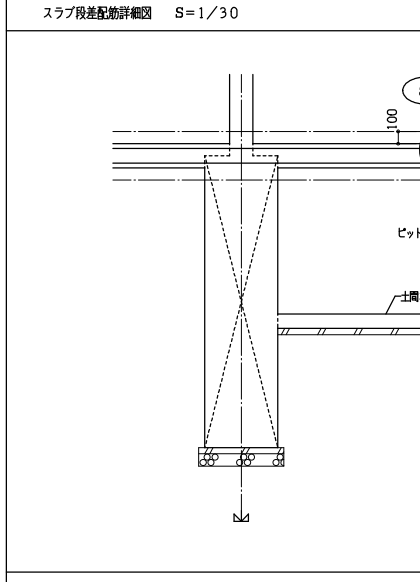
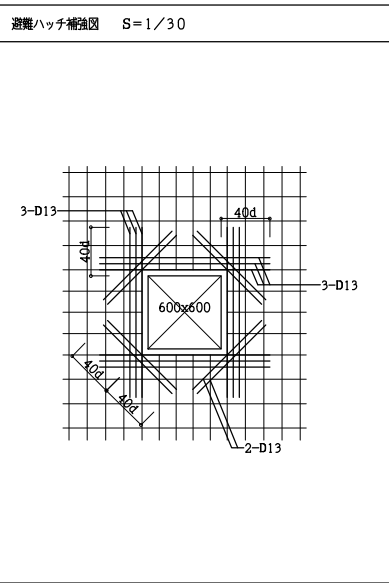
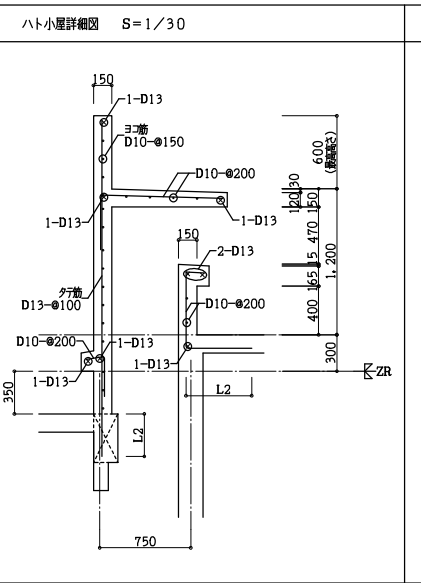
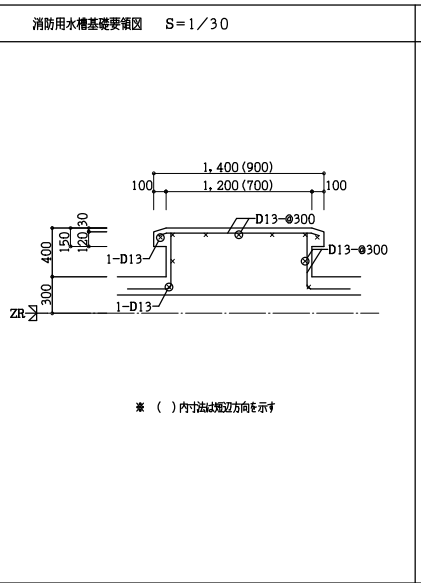
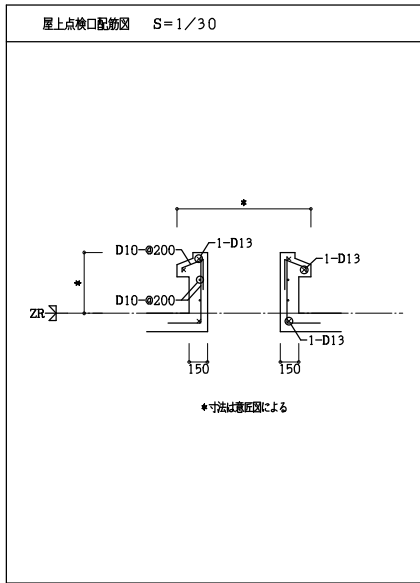
*外壁隅部の基礎の下側に下記の補強筋を入れる
 *a: 5-D13φ100
 L1≥1500 L2≤600

スラブの出隅・入隅部の補強筋

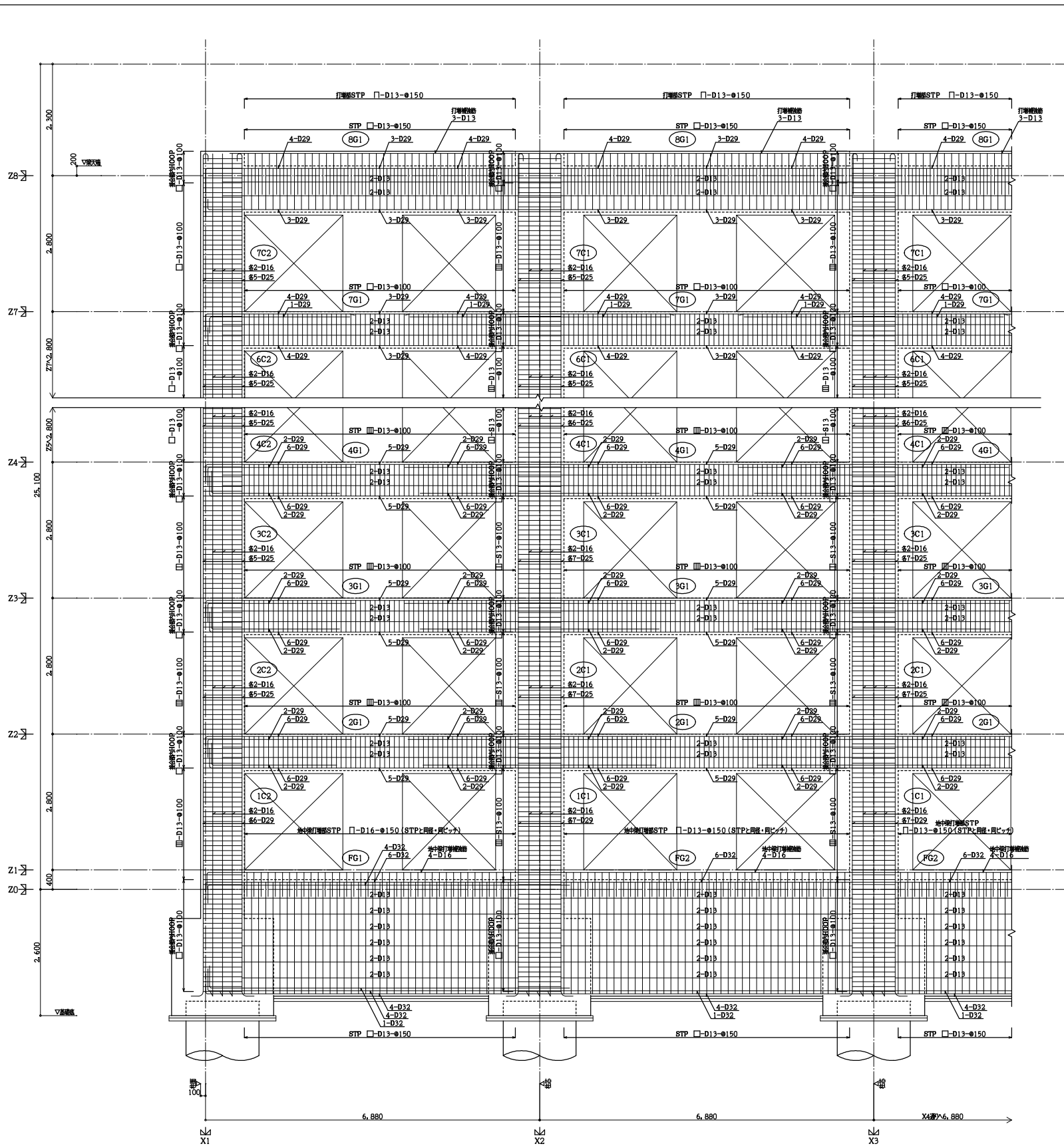


*スラブ上階部の下側に下記の補強筋を入れる
 *層別補強: 5-D13φ100
 *一般補強: 3-D13φ100
 L1≥1500 L2≤600
 (*L1は階部を境目に挿入させる)

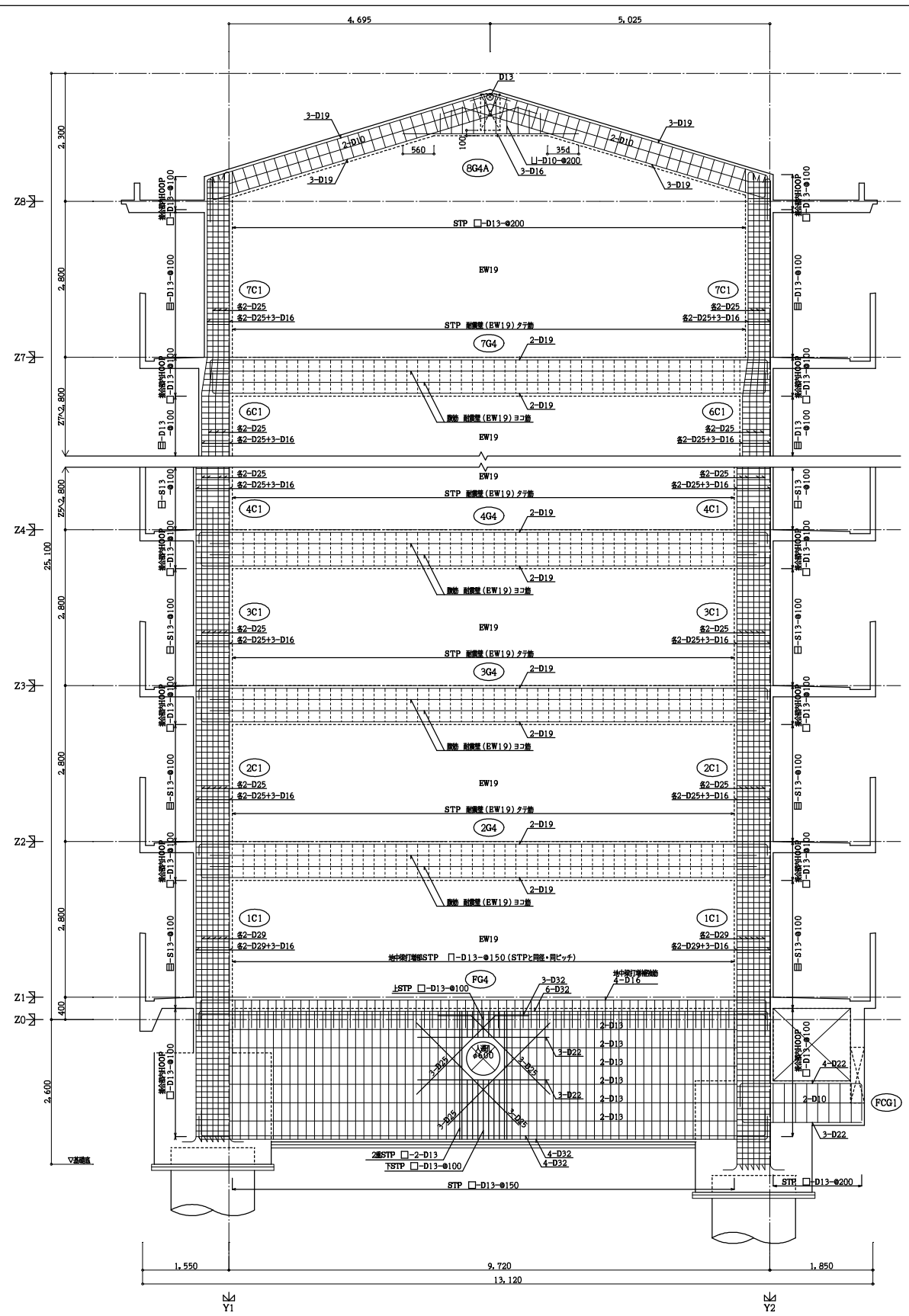
有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160000号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	雑詳細図 (1)	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
製 図	製 図	設 計 H30年3月	S-27
愛知県建築局公共建築部公営住宅課			



有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160060号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	雑詳細図 (2)	S-28
縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	製 H30年3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

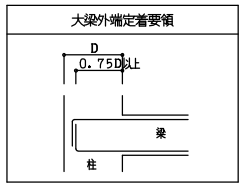


Y1通り架橋配筋図 S=1/50

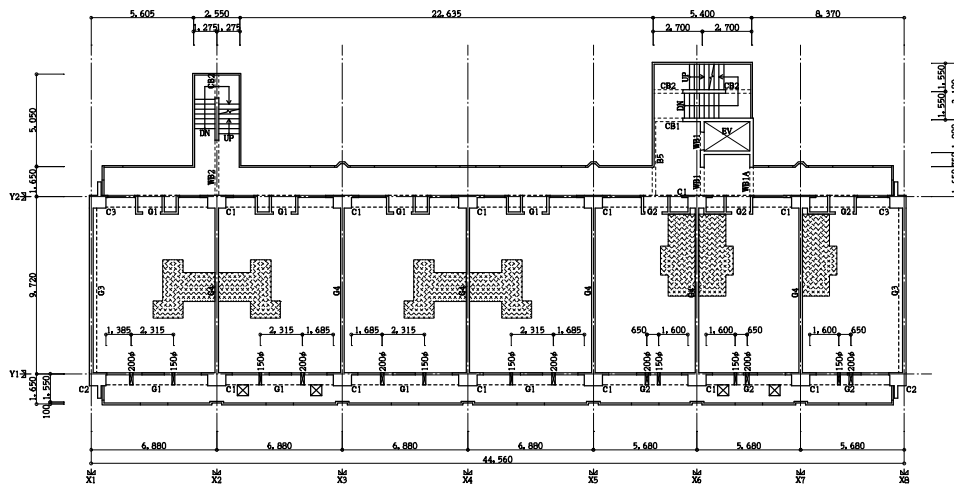


X3通り架橋配筋図 S=1/50

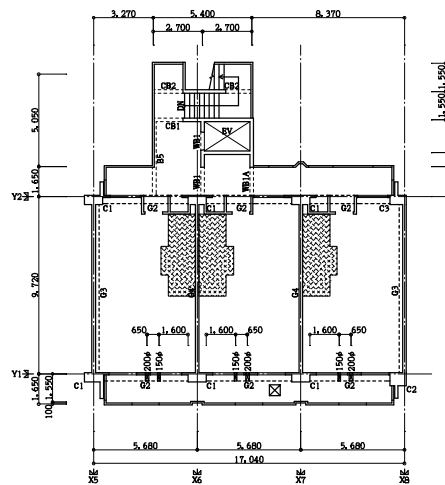
- 特記なき限り下記による
- 量は W12 とする
 - 筋量は 量リスト参照 とする
 - Sは KSS785 を示す
 - スリットは 軸図参照 とする
 - 柱筋の主筋D22, D25は フック付定着とする



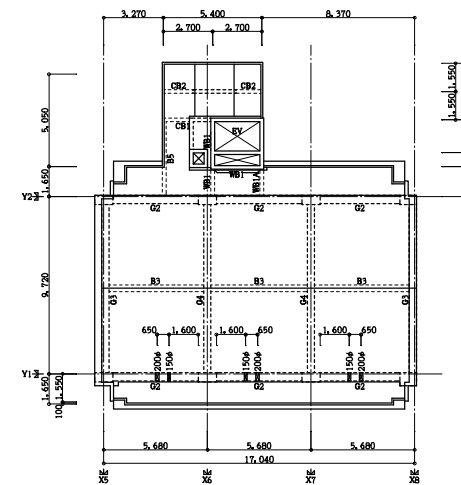
有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160000号 構造設計一級建築士 登録番号 第1442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	架橋配筋図	S-29
図 製 図 製 図	図 製 図 製 図	縮 尺 A1: 1/50 A3: 1/100	
H30年3月		愛知県建築局公共建築部公営住宅課	



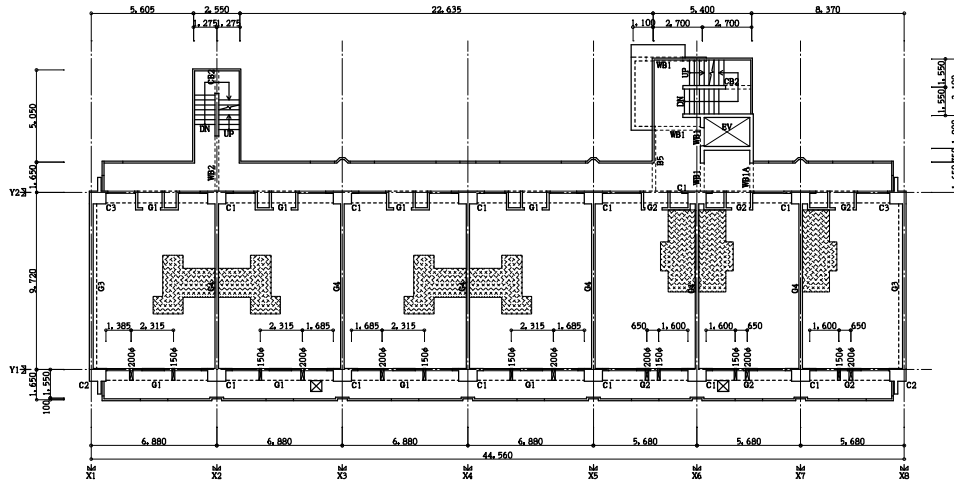
Z3~Z6 スリプ伏図 S=1/200



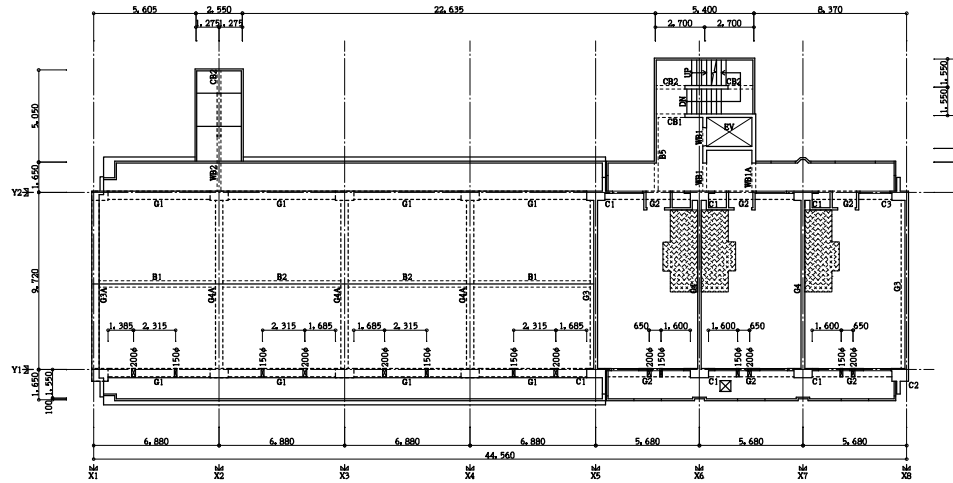
Z9 スリプ伏図 S=1/200



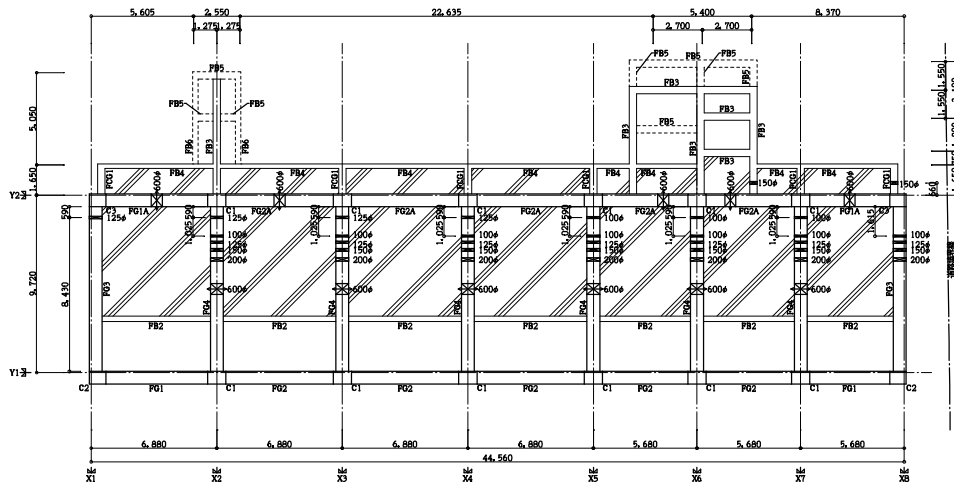
ZR スリプ伏図 S=1/200



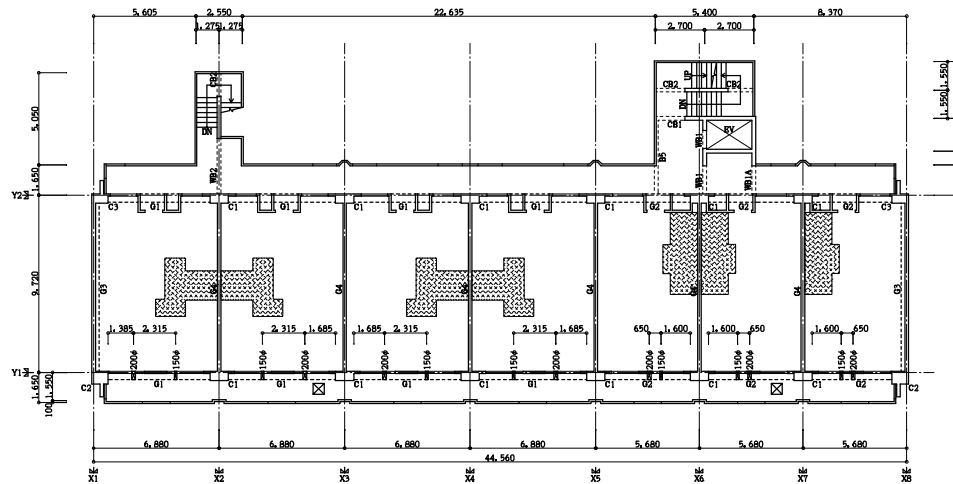
Z2 スリプ伏図 S=1/200



Z8 スリプ伏図 S=1/200



Z1 スリプ伏図 S=1/200



Z7 スリプ伏図 S=1/200

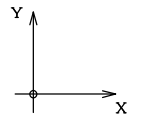
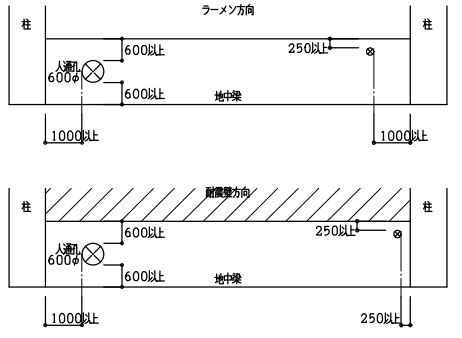
スリプ記号	径	梁符号	梁幅B	梁幅D	配筋種別
大梁	150・200φ	G2	450	950	H1 (RF)
		G1	450	950	H1 (BF)
大梁	150・200φ	G2	450	750	H2 (7~9F)
		G1	450	750	H2 (7F)
大梁	150・200φ	G2	550, 650	750	H3 (2~6F)
		G1	550, 650	750	H3 (2~6F)
基礎梁	100~200φ	FG3	700	2,400	H10
		FG4	700	2,400	H10

実際の施工にあたってはスリプの位置、径、本数、補強方法について
 別途設備業者などと事前に入念な打ち合わせをいたすこと、位置を検討し
 施工に際しては、監督員と協議を行い、承認を得ること。
 補強方法は計量書を監督員に提出し、承認を得た上で既成品の使用が可能とする。
 取入選孔は「S-19 基礎リスト」を参照

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
符号	A	B	C	D	縦筋B・上下縦筋Dは、あばら筋とする
H1	4x2-D13	2x2-D13	2x2-D13	1x2-D13	
H2	4x2-D16	2x2-D13	2x2-D13	2x2-D13	
H3	4x2-D19	2x4-D13	2x2-D13	2x3-D13	
H10	4x2-D13	2x2-D13	2x2-D13	1x2-D13	

- 特記なき限り下記による
- スリプ径
 ()内は 孔有物形 を示す
 100φ (114)
 150φ (165)
 200φ (216)
 600φ: 人通孔 (620)
 - スリプ補強は 既製品 とする
 - 配管ピット内 (Z1) のスリプレベルは 配筋図 に従う
 但し、下記の スリプ設置位置条件 は必ずのこと
 - ピット天端は Z0-1100 とする

地中梁スリプ設置位置 地中梁については、R-13-1の設置位置条件は適用しないで、下記に従う。



有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事 (第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第160000号 構造設計一級建築士 登録番号 第7442号 青木 悠	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	スリプ図	S-30
検 製 図	検 製 図	設 計	
		H30年3月	
愛知県建築局公共建築部公営住宅課			

建築工事特記仕様書 高強度せん断補強筋 685級 785級

§ 1 一般事項

1-1 適用範囲

本仕様書は鉄筋コンクリート造の梁及び柱のせん断補強筋として使用される高強度鋼棒によるあばら筋及び帯筋の施工に適用する。この仕様書に記載していない事項に関しては「JASS 5」によるものとする。但し、コンクリートの設計基準強度は下記による。

普通コンクリート	21N~60N
----------	---------

§ 2 材料

2-1 材種

低合金キルド鋼を熱間異形圧延し、制御冷却し、必要に応じて熱処理した線材コイルを素材として、冷間直線矯正加工を施して製造された 表-1 に示す大臣認定を受けた785N/mm級の鋼棒。

表-1

製品名	製造メーカー	種類の記号	国土交通大臣認定番号
リバーボン785	JFEテクノワイヤ	KW785	MSRB-9007
デーフープ	神戸製鋼所	KSS785	MSRB-0004
ストロングフープ	住友金属工業	KSS785	MSRB-0005
スミフープ	住友電気工業	KSS785	MSRB-0036
パワーリング80	東京鉄鋼	SPR785	MSRB-9005
UHYフープ	北越メタル	SHD685	MSRB-9004

2-2 高強度せん断補強筋の諸元

表-2

呼び名(径) d					公称径 mm	公称周長 mm	公称断面積 mm ²	単位質量 kg/m
リバーボン785	デーフープ	ストロングフープ	スミフープ	UHYフープ				
K10	S10	T10	U10		9.53	30	71	0.560
K13	S13	T13	U13		12.7	40	127	0.995
K16	S16	T16	U16		15.9	50	199	1.560

※ 高強度せん断補強筋 785級の図面上の表示はS10~S16とする。
685級の図面上の表示はU10~U16とする。

2-3 高強度せん断補強筋の機械的性質

表-3 機械的性質

試験片	785N/mm ² 級			685N/mm ² 級		
	降伏点 N/mm ²	引張強さ N/mm ²	伸び %(8d)	降伏点 N/mm ²	引張強さ N/mm ²	伸び %(8d)
母材	785以上	930(932)以上	8(10)以上	685以上	885以上	10以上
溶接部	785以上	930以上	5以上	685以上	885以上	5以上
記号	KW785 KSS785 SPR785			SHD685		

§ 3 加工

3-1 曲げ角度溶接

785N/mm級の曲げ加工及び溶接は、製造メーカーおよびその認定工場で行う。

3-2 曲げ角度余長

表-4 曲げ角度及び余長

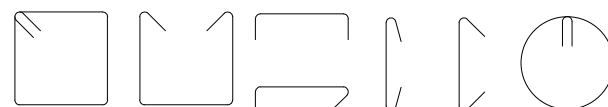
折曲げ部分	末端部	中間部	
折曲げ内の直径(D)	4d以上	4d以上	
折曲げ角度	165° (180°)	135° 90°	90° 以下
図			

(備考) 1. dは呼び名に用いた数値とする。
2. 折曲げ角度90°は、スラブと同時に打ち込むT型及びL型はりの場合にU字形あばら筋と共に用いるタイプ及び、コアコンクリート内に定着する場合に用いる。
3. リバーボン785またはパワーリング80を使用の場合は()内におきかえる。

3-3 加工形状

曲げ加工種別 (代表例を示す)

1) 単筋フック付



2) 単筋溶接閉鎖形



3) スパイラル筋



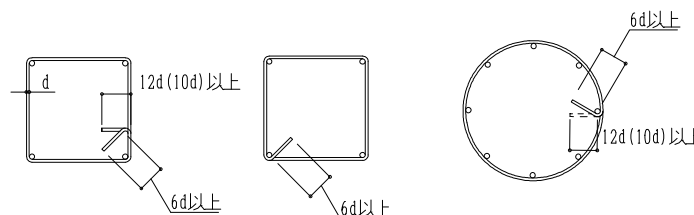
§ 4 組み立て

4-1 組み立て

せん断補強筋は設計図及び施工図に従い正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しない様十分堅固に組み立てる。フック付単筋を用いる場合はフック位置を交互に配置する。溶接閉鎖形筋の溶接面は交互に配置する。

4-2 末端処理

- 1) 角スパイラル筋の末端は1巻き以上の添え巻きをし、末端には表-4規定の余長を持つフックをつける。但し、90°フックの場合はコアコンクリート内に定着する。
- 2) 円形スパイラル筋の末端の処理は1巻き以上の添え巻きをし、末端には表-4規定の余長を持つフックをつけ、主筋に密着させて曲げる。

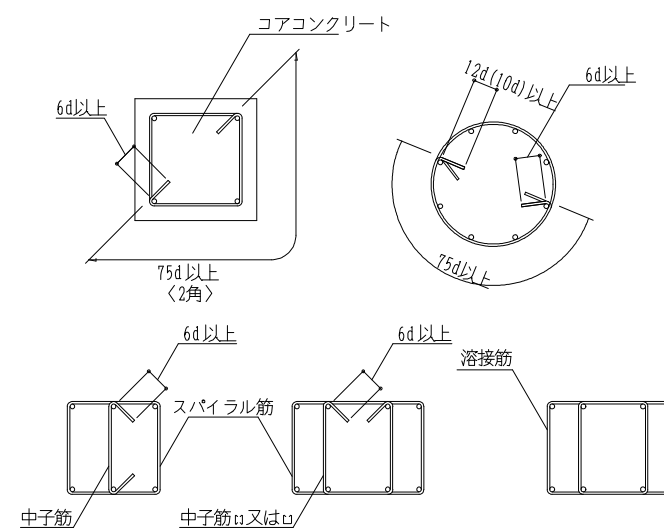


※ リバーボン785またはパワーリング80を使用の場合は()内におきかえる。

4-3 継手

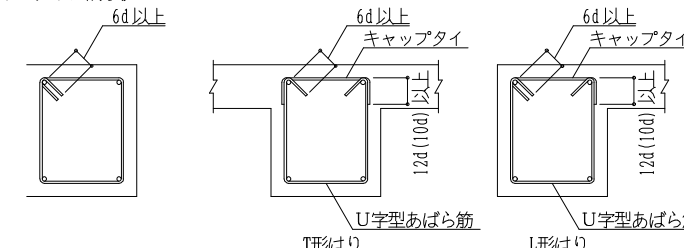
- 1) 角スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは75d以上とし、かつ重ね長さ中に少なくとも2角以上を含む様に設けるものとする。又末端には表-4規定のフックをつける。但し、90°フックの場合はコアコンクリート内に定着する。
- 2) 円形スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは75d以上とし、かつ末端には表-4規定のフックをつけ、主筋に定着させて折曲げる。
- 3) 中子筋付スパイラル筋の場合はメーカー仕様による。

4-4 スパイラル筋(又は溶接筋)と中子筋の併用



4-5 あばら筋

単筋フック付きのあばら筋を使用する場合、あばら筋の末端には表-4規定のフックをつける。但し、90°フックとする場合はスラブと同時に打ち込むT形及びL型はりに用いるU字形あばら筋キャップタイに限る。



※ リバーボン785またはパワーリング80を使用の場合は()内におきかえる。

§ 5 その他

5-1 注意事項

- 1) 高強度鋼棒せん断補強筋は現場溶接を行ってはならない。又、主筋等の溶接に際してはせん断補強筋にアークストライク等過度の加熱をせぬよう十分注意する。
- 2) 高強度鋼棒の切断はシャーカッター、電動のこにより行う。
- 3) 曲げ加工したものを曲げもどし、曲げ位置を変更する様な再加工を行ってはならない。
- 4) せん断補強筋は直接地上に置くことを避ける。又、雨・潮風等にさらされず、ごみ、泥油等で汚さない様に保管する。
- 5) せん断補強筋は組立に先立ち、浮き錆・油類・ごみ・泥等コンクリートとの付着を妨げる恐れのあるものは除去する。

5-2 配筋の検査

配筋後、コンクリート打ちに先立ち係員の検査を受けなければならない。

有限会社 青木設計工房	株式会社 山田設計	清水住宅建築工事(第6工区)	図面番号
一級建築士 登録番号 第10090号 構造設計一級建築士 登録番号 第1442号 青木 総	一級建築士 登録番号 276958号 坂口 博文	高強度せん断補強筋 特記仕様書 縮尺 A1: 二 A3: 二	S-31
検 査 図 回	検 査 図 回	設 計 H30年 3月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課